授業概要

14回生

尾北看護専門学校

教育理念

看護は生命の尊厳を基盤として、個人の幸福へと生活過程を整えていくことであり、人がよりよく生きることができるよう、意図的な援助を行うことである。

本校の教育指針は、あらゆる健康状態にある人を対象に、自己の看護観をもって看護活動できる能力を養うとともに、豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる看護師の育成を目指している。

教育目的

看護の専門職業人として、必要な知識・技術・態度を修得させ、豊かな人間性を育み、地域社会の保健医療福祉のニーズに対応できる看護の実践者を育成する。

教育目標

1) 看護の対象である人間を統合された存在として捉える能力を培う
2) 人間の尊厳と個人を尊重するための能力を培う
3) 人間関係を築くためのコミュニケーション能力を培う
4) 専門的知識・科学的根拠に基づいた看護を安全に実践できる能力を培う
5) 地域社会のニーズに対応できる能力を培う
6) 常に看護を探求し、自己成長する力を培う

看護における主要概念

＜人間＞

1) 人間は、唯一無二の存在であり、かけがえのない存在である。
2) 人間は、身体的・精神的・社会的・霊的側面をもつ統合された存在である。
3) 人間は、ライフサイクルの中で成長発達をする存在である。
4) 人間は、環境と相互作用しながら変化しつづける存在である。
5) 人間は、その人らしく生きるために独自の文化をつくっている社会的存在である。
6) 人間は、常にニードをもっている存在である。
7) 人間は、生活を営んでいる存在である。

＜環境＞

1) 環境は、人間を取り巻くすべてのものである。
2) 環境は、変化し続ける。
3) 環境は、内部環境と外部環境があり、人間と環境は相互に影響し合っている。
4) 内部環境は、恒常性を維持するための構造と機能である。
5) 外部環境は、自然環境、社会環境、文化的環境がある。

＜健康＞

1) 健康は、人間が環境によって変化している状態であり、常に流動的である。
2) 健康は、身体的・精神的・社会的側面がある。
3) 健康は、その人の価値観により異なる主観的健康と第三者による客観的健康がある。
4) 健康は、自立/自律・依存しながら生活している状態である。

＜看護＞

1) 看護の対象は、かけがえのない人間であり、生活者である。
2) 看護の対象は、あらゆる成長発達段階にある人々、あらゆる健康状態にある人々である。
3) 看護は、倫理観に基づく行為である。
4) 看護は、その人がもっている力を最大限に発揮し「よりよく生きる」ことができるよう支援することである。
5) 看護は、人間関係を基盤とした対象との相互作用によって実践される。
6) 看護は、専門的知識を基に対象を理解し、科学的根拠に基づいた実践活動である。
7) 看護は、社会情勢の動向に伴う保健医療福祉のニーズに対応する。
8) 看護は、保健医療福祉チームの中で専門職としての役割を果たす。

各分野のねらいとカリキュラム構造図

＜基礎分野＞

■科学的思考の基盤

科学的思考とは、現象としてあるものの奥深くに存在するものを探り、その実態を明らかにする行為である。そのための客観的、相対的に物事を観る能力を養う。

■人間と生活、社会の理解

看護の対象である人間及び生命を尊ぶ態度、人間対人間の関係、人間とその生活が幅広く理解できる能力を養う。

＜専門基礎分野＞

■人体の構造と機能

看護における形態と機能は、他で言う人体の構造と機能、生理学の分野であり、看護の視点からからだの構造と機能を学ぶ学問である。健康な私たちは日常生活を何気なく過しているが、体調を崩した時や病気に罹患した時は、健康のありがたさを痛感する。看護は、健康・不健康を問わず、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。この日常生活行動は、すべてからだのはたらきの上に成り立っている。そのため、からだがどのように日常生活行動を成し遂げているのかという視点から、からだのしくみについて学ぶ。さらに臨床生化学では人間の体がどのような物質で成り立っているのか、それらの物質がどのように調節され、生命維持・健康維持しているかを学ぶ。

これらは、実践の科学である看護学の土台となる科目である。

■疾病の成り立ちと回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進では、疾病をもった人に対する観察力・判断力を養うことをねらいとしている。健康・疾病に関する理解を深め、科学的思考を強化し、個別的な看護を展開するために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

■健康支援と社会保障制度

現在、わが国では少子超高齢社会に対応するため、社会福祉・社会保障が変革時期を迎え、課題解決に取り組んでいる。そのなかで、人々の生活を支えるために各種の制度が存在することを理解し、「ノーマライゼーション」「よりよく生きる」の考え方を学ぶ。

また、保健医療福祉との連携の重要性を理解するため、保健医療福祉に関する基本概念・関係制度、各職種の役割を学び、人々が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる基礎的知識・能力を養うことをねらいとする。

＜専門分野＞

■基礎看護学

基礎看護学は、学生が最初に学ぶ専門科目であり、看護学全体の土台となる科目である。また、専門職としての基礎的知識・技術・態度を学ぶ科目でもある。看護とは何か、看護の本質を学び、看護の対象に対して生活過程を整えるための援助方法を講義や演習を通して習得する。その援助技術は、科学的根拠に基づき、その技術を支えるエビデンスを理解して実践することが必要である。ここで押さえる技術は基本的な技術＝型であり、すべての看護技術の土台となるものである。各看護学への応用・発展に繋がる知識、技術、態度を確実に身につけることをねらいとする。

■地域・在宅看護論

他国に類をみない早さで進展する少子超高齢社会、それは生産年齢人口の著しい減少という事態を招くことである。この変化は、従来型の病院中心、医療従事者主導の医療のしくみを根本から見直す必要性を示唆するものであり、これからの看護師には、地域包括ケアシステム等のなかで、その役割を遂行することが求められる。

近年、地域包括ケアシステムの構築・展開により地域における看護実践の対象、場、方法は広がりを見せている。それに加え、看護の対象である人々の生活の多様性、複雑性も高まり、地域で暮らす人々の生活の継続性や包括性を保障し、生活の質を向上するための看護が求められている。

地域・在宅看護論では、生活の基盤である「地域」を理解し、人々の暮らしを支えるために必要な看護を学ぶ。地域包括ケアシステム等における支援は、「共助」「公助」のみでなく、地域で暮らす人々が主体となり、「ともに暮らす」「ともに支える」「ともに成長する」といった「自助」「互助」や、保健医療従事者との「パートナーシップ」に基づく活動についても理解を深める。また、病気や障害をもちながら地域で療養している療養者と家族を理解し、生活しているそれぞれの地域の保健医療福祉システムの特徴を踏まえ、その人らしい生活を支援するための看護師の役割と支援体制を学ぶ。

■成人看護学

成人看護学の対象となる成人期にある人は、家庭・地域・社会において中心的役割をもち、社会・自然環境の刺激を受けながら身体的・精神的・社会的に成長・成熟・発達しつづける存在である。近年、健康に対する関心が高まる一方、食生活の欧米化や生活習慣の変容、競争社会からくるストレス、IT社会による情報の氾濫・人間関係の希薄化などによって多様な健康上の課題をもっており、成人期を取り巻く環境や健康障害が深刻な社会問題となっている。

成人看護学では、成人期にある対象を社会における生活者として捉え、生活環境が健康に与える影響を学ぶ。さらに、どのような健康状態にあってもその人らしい生活とよりよく生きることを目指すための看護実践ができるよう、対象の状況に応じた援助について学ぶ。

また、この成人看護学の学びを通して自己の健康と生活について振り返る機会としてほしい。

■老年看護学

わが国の高齢化はますます進み、老人医療費の増加などさまざまな社会問題が提起されており、対応が迫られている。看護実践においても高齢者の占める割合が増え、医療費の削減、入院日数の短縮化により、実践の場は病院から施設や在宅へ広がっている。その中で看護師は、多職種と連携を図り、調整役としての必要性が高まっている。また、様々な健康状態にある高齢者が常に健康に過ごせるよう、事故や疾病を予防する活動が求められている。

看護の対象である高齢者は、老化により身体的には成熟した後、退縮・衰退にいたる時期ではあるが、精神的には更に成熟し、安らかな死をもって生を成し遂げる人生の最終段階にある。そして長い生活歴により、生活体験も様々で、個人差が大きい。

老年看護学では、「生活モデル」で高齢者とその家族を理解し、障害や疾病をもちながら、その人らしく自立した生活ができるように、QOLを重視した看護を学ぶ。

■小児看護学

少子超高齢社会に伴い、我が国の政治・経済・医療の変化の流れに影響され、子どもを取り巻く環境は急速に変化し続けている。子どもの虐待や貧困はすでに世界的な課題であり、これらも含め現代の社会や家族の状況が子どもへ及ぼす影響を知る意義は、小児看護を学ぶ上で重要である。

権利を有する一人の人間として子どもを尊重し、様々な健康レベルにある子どもが、社会の中で健やかに成長・発達できるように、子どもを育む家族とともに看護の対象とし、最善の看護を提供していく必要性を学んでほしい。さらに、子どもの成長・発達段階及び子どもに特有な症状・疾患の理解とそれに応じた看護を実践できる基礎的な知識・技術を学び、入院中の子どもだけではなく、地域で生活するすべての健康レベルにある子どもと家族の看護を考える能力を養ってほしい。

■母性看護学

わが国の、平均寿命の延長と出生率の低下は、少子超高齢社会をもたらし、今日、まだその大きな変化の途上にある。また、医療の高度化、生命科学の進歩、女性の社会進出を背景に母性を取り巻く生活環境は変化し、家族のあり方や出産・育児に対する価値観、女性の生き方も多様化している。

この様な背景から母性看護学では、広く女性の一生を視野に入れ、思春期から更年・老年期にある女性を対象とする。産む性を選択した女性のマタニティサイクルにある人々の看護だけでなく、生殖をめぐる女性の健康上の課題と、ライフサイクルからみた女性の発達・健康上の課題と看護を学ぶ。そのなかで、ヘルスプロモーションの概念を取り入れ、個々のエンパワーメントが向上するような援助方法を学んでほしい。

■精神看護学

現代社会は、ストレスの多様化、人間関係の希薄化などにより様々なこころの健康上の課題を抱える人が増加し、これまで以上にこころの看護が重視されている。こころと身体は相互に作用し、こころの健康は人間の生活に大きく影響する。また、医療の進歩や社会構造の変化に伴い、精神保健医療福祉は施設中心の医療から地域支援に重点を

置いた施策へと変化してきている。

看護の対象は、ライフサイクルにある人々であり、こころの健康の保持・増進、危機への対処、さらにはこころの健康上の課題を抱える人、およびその家族の生活指導・リハビリテーション、地域支援までを包括する。

精神看護学では、自己理解・他者理解の必要性を理解し、健康上の課題をもつ人がその人らしく生活するための援助方法を学ぶ。

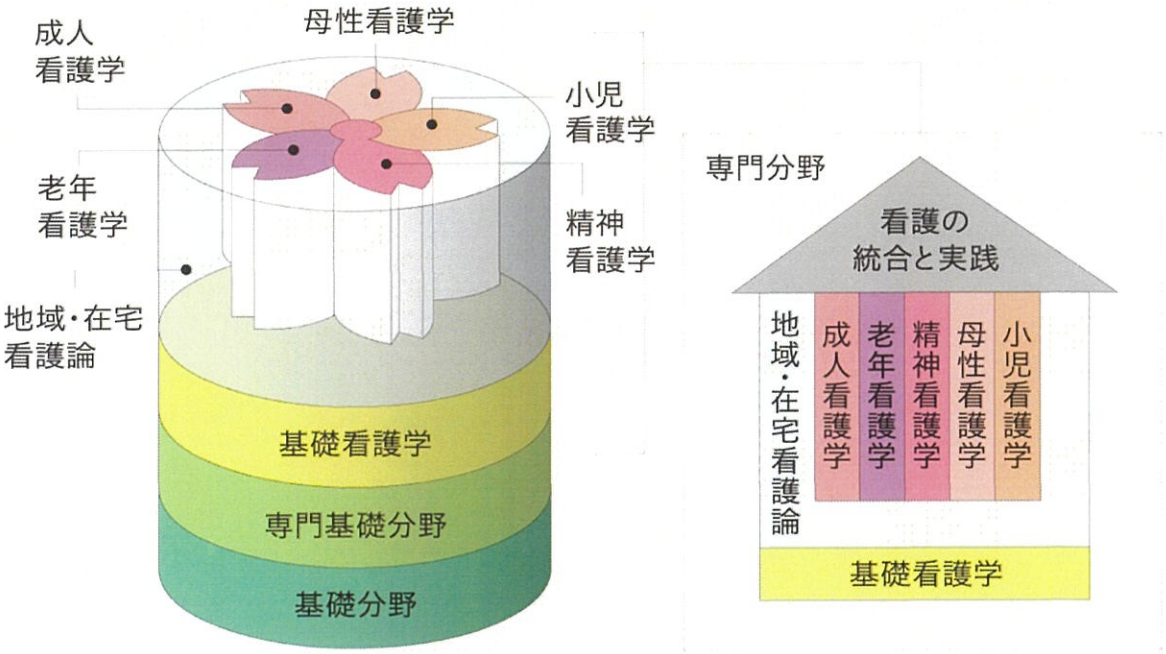
■看護の統合と実践

看護の統合と実践では、基礎分野・専門基礎分野・専門分野で学習したものを臨床実践に近い形で個々の状況に応じて応用・活用し提供できる能力を養う。

チーム医療および多職種との協働のなかで、看護職の役割を理解するとともに、看護マネジメントができる基礎的知識と、看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る際に基盤となる倫理的判断・行動を学ぶ。また、現在必要とされる医療安全やリスクマネジメント、卒業後幅広い視野をもてるよう、災害看護や広がる看護活動に目を向け、その基礎を学ぶ。

看護師は、より良い看護を探究し続ける人でなくてはならない。自己の看護実践を振り返ることは、看護を考え実践する際の基準となり、次の看護へいかすことにより、より良い看護につながる。看護の統合では、看護師としての自己を振り返り、看護観を深め、技術演習をとおし看護実践能力を養うことをねらいとしている。

カリキュラム構造図



専門基礎分野は看護の学習を支持し、看護実践の基礎として人体及び人間の健康について学習する場であり、基礎分野を土台とし、専門分野の基盤となるよう位置づけている。

「基礎看護学」「地域・在宅看護論」は、各看護学を支え、包みこむように位置づけ、「各看護学」は、それらを発展させる場と考える。そして、小児から老年のどのライフサイクルにも関連するこころの健康について学ぶ精神看護学を中核に置き、それを取り囲むように発達段階別の「成人看護学」・「老年看護学」・「小児看護学」・「母性看護学」を位置づけた。図の中のさくらは、学校がある大口町の町の花、さくらを模った。

「看護の統合と実践」は、卒業後、それまでに学習した内容を臨床実践で活用し、臨床現場にスムーズに適応しできるよう、3年間学習した知識・技術を統合する場として、一番上に位置づけている。

進度表

区分	教育内容	科目	単位	時間	第1学年 前期 単位	第1学年 前期 時間	第1学年 後期 単位	第1学年 後期 時間	第2学年 前期 単位	第2学年 前期 時間	第2学年 後期 単位	第2学年 後期 時間	第3学年 前期 単位	第3学年 前期 時間	第3学年 後期 単位	第3学年 後期 時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	1	30										
		看護にいかす物理学	1	30			1	30								
		看護情報科学	1	30	1	30										
		外国語(英語)	1	30							1	30				
	人間と生活・社会の理解	倫理学	1	15	1	15										
		文化人類学	1	15			1	15								
		心理学	1	30	1	30										
		教育学	1	30			1	30								
		人間発達学	1	30			1	30								
		人間関係とコミュニケーション	1	30	1	30										
		生活と社会学	1	15			1	15								
		笑いの科学	1	15			1	15								
		スポーツと健康	1	15	1	15										
		レクリエーションと健康	1	15					1	15						
小計			14	330	6	150	6	135	1	15	1	30				
専門基礎分野	人体の構造と機能	看護における形態と機能Ⅰ	1	30	1	30										
		看護における形態と機能Ⅱ	1	30	1	30										
		看護における形態と機能Ⅲ	1	30			1	30								
		看護における形態と機能Ⅳ	1	21	1	21										
		看護における形態と機能Ⅴ	1	15			1	15								
		看護における臨床生化学	1	30			1	30								
	疾病の成り立ちと回復の促進	病因論	1	15	1	15										
		臨床薬理学	1	30					1	30						
		微生物学	1	30	1	30										
		健康障害と治療Ⅰ	1	30			1	30								
		健康障害と治療Ⅱ	1	30			1	30								
		健康障害と治療Ⅲ	1	30					1	30						
		健康障害と治療Ⅳ	1	21					1	21						
		健康障害と治療Ⅴ	1	30					1	30						
		健康障害と治療Ⅵ	1	30					1	30						
		救急救命医療	1	15									1	15		
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	15	1	15										
		看護と法律	1	15							1	15				
		公衆衛生学	1	21					1	21						
		社会福祉	1	30					1	30						
		リハビリテーション論	1	15			1	15								
		エンド・オブ・ライフケア	1	30					0.5	8	0.5	22				
小計			22	543	6	141	6	150	7.5	200	1.5	37	1	15		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	1	30										
		看護における共通技術	1	30	1	30										
		フィジカルアセスメントⅠ	1	30			1	30								
		フィジカルアセスメントⅡ	1	15			1	15								
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1	30										
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30			1	30								
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30	1	30										
		診療補助技術	1	15					1	15						
		看護の思考	1	30			1	30								
		基礎臨床看護論	1	30			1	30								
		指導技術	1	30					1	30						
		看護研究	2	45									2	45		
	地域・在宅看護論	地域と暮らし	1	15	1	15										
		家族を支える看護	1	30							1	30				
		暮らしを支える看護Ⅰ	1	15			1	15								
		暮らしを支える看護Ⅱ	1	30					1	30						
		地域で療養する人を支える看護Ⅰ	1	30							1	30				
		地域で療養する人を支える看護Ⅱ	1	30							1	30				
	成人看護学/老年看護学	成人・老年看護学概論	1	30			1	30								
		成人・老年看護学援助論Ⅰ	1	30			1	30								
		成人・老年看護学援助論Ⅱ	1	30					1	30						
		成人・老年看護学援助論Ⅲ	1	30					1	30						
		成人・老年看護学援助論Ⅳ	1	21					1	21						
		成人・老年臨床看護論Ⅰ	1	15							1	15				
		成人・老年臨床看護論Ⅱ	1	30							1	30				
		疾病理解と看護学的視点Ⅰ	1	15			1	15								
		疾病理解と看護学的視点Ⅱ	1	30					1	30						
		高齢者のヘルスアセスメント	1	30			1	30								
	小児看護学	小児看護学概論	1	30					1	30						
		小児看護学援助論Ⅰ	1	15					1	15						
		小児看護学援助論Ⅱ	1	30							1	30				
		小児看護学援助論Ⅲ	1	15									1	15		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30					1	30						
		母性看護学援助論Ⅰ	1	15					1	15						
		母性看護学援助論Ⅱ	1	21							1	21				
		母性看護学援助論Ⅲ	1	15									1	15		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30					1	30						
		精神看護学方法論	1	21					1	21						
		精神看護学援助論Ⅰ	1	21					1	21						
		精神看護学援助論Ⅱ	1	15							1	15				
	看護の統合と実践	看護管理	1	21									1	21		
		医療安全	1	15									1	15		
		災害看護・国際看護	1	30			1	30								
		看護の統合	2	45											2	45
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45										
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			2	90								
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90					2	90						
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90											2	90
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90					2	90						
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90									2	90		
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90									2	90		
		高齢者の看護実習	2	90									2	90		
		子どもの看護実習	2	90											2	90
		母性看護学実習	2	90									2	90		
		こころの健康を支援する実習	2	90							2	90				
		統合実習	2	90											2	90
小計			69	2160	6	180	13	375	18	528	10	291	14	471	8	315
科目計			82	1998	17	426	23	570	22.5	563	10.5	268	7	126	2	45
実習計			23	1035	1	45	2	90	4	180	2	90	8	360	6	270
合計			105	3033	18	471	25	660	26.5	743	12.5	358	15	486	8	315
学校行事・教科外活動				224		45		45		34		34		33		33
総計			105	3257	19	516	24	705	26.5	777	12.5	392	15	519	8	348

論理学

講師：加藤 彩

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．さまざまな情報や他者の意見に対し、論理的に思考・対応する力を身につける
2．日本語の表現力を向上させ、自らの思考を論理的に表現する力を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
論理的思考の諸相	1.論理的な考え方 1)論理とは何か 2) 説得力のある話し方 2.論理的思考と批判的思考 1)ディベート	講義 演習	12 (5)
文章表現の方法	1.日本語による文章作成の特質 2.文章の諸形態 3.論文作成の技法	講義 演習	10 (4)
言葉の力	1.敬語の仕組みと使い方 2.言葉の力応用編	講義 演習	7 (6)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・授業中のレポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

看護にいかす物理学

講師：金田 泰代

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．人間工学を深く見る目、物理的に解釈するセンスを養い、医療や看護の現場で主体的に適応できる能力を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
人間工学	1.人間工学とは 2.医療現場における物理現象	講義	4
ボディメカニクス	1.重いものをもつには、どうしたらよいか 2.ボディメカニクスの物理 1)体位変換と物理 2)車いす移乗と物理	講義	8
圧力	1.身近な圧力 2)気圧、水圧が人体に及ぼす影響 3)真空採血の原理と密閉容器と保存温度	講義 演習	4 (2)
呼吸器と吸引の物理	1.呼吸器と吸引の物理 1)肺・呼吸運動の物理と吸引 2)サイフォンの原理と洗浄	講義	4
点滴静脈注射の物理	1.点滴の連結と滴下速度	講義	3
循環器、感覚器の物理	1.血液循環と血圧 2.感覚器の特性 3.体温制御の物理	講義	6
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

看護学生のための物理学(医学書院)

■学習上の留意点

看護情報科学

講師：丹羽 尚子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．ICTの特性を理解し、コンピュータの基本的な使用方法を身につける
2．情報社会が社会に及ぼす影響や情報モラル、情報に対する責任を理解する
3．身の回りにある膨大な情報の中から必要な情報を検索し、適切に利用・管理する方法を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
情報科学とは	1.情報とは 2.情報倫理とセキュリティについて	講義	2
コンピュータの基礎知識	1.ハードウェアとソフトウェア 2.Windowsの基本 1)基本操作 2)ファイルシステムと階層構造 3)文字入力について 4)保存 5)印刷 6)周辺機器の接続 3.コンピュータを快適にするために 1)ファイルの整理 2)バックアップ 3)セキュリティ強化	講義 操作実習	4
インターネットについて	1.インターネットとは 1)インターネットの接続基礎知識 2)ホームページの閲覧 2.インターネットを使った情報検索と収集 1)検索サイトについて (1)Google,Yahoo！など一般の検索サイト (2)日経メディカルオンライン、m3. com (3)医中誌Web、Google scholar論文検索 2)情報を適切に利用するための基礎知識	講義 操作実習	6
統計基礎	1.統計基礎 2.表計算ソフトの使い方 3.レポートの作成	講義 ワークショップ 発表	8
プレゼンテーションの手法	1.プレゼンテーションとは 2.プレゼンテーションツールの使い方 3.発表資料作成 4.発表	講義 ワークショップ 発表	8
まとめ	1.看護にいかす情報科学	講義	2

■成績評価の方法

レポート・プレゼンテーション資料・発表技術を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座　別巻　看護情報学(医学書院)

■学習上の留意点

外国語（英語）

講師：Joycylin Ayuste Bastian

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．看護師としてコミュニケーションに必要とされる簡単な英会話を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
英会話1	1.May I know your name? 2.Welcome to our hospital 3.Pulse,Temperature, Blood Pressure,Heartbeat 4.Dr.Dr.Am I sick? 5.Where's the pharmacy? 6.I don't know how to use it 7.Signs and Symptoms 8.Keep Clean and Tidy 9.Exercise is good for you 10.The human body 11.Where's the pain? 12.Handling hospital phone calls 13.Emeregencies 14.Amazing healthy tips 15.Keep a healthy and well-balance diet 16.I want to see a doctor 17.Health advice 18.Fruits and Vegetables 19.Paying hospital bills 20.Going home	講義	29
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・パフォーマンステスト・授業参加態度を総合的に評価

■テキスト参考書など

PLACTICIAL ENGRISH FOR JAPANESE NURSE(初回の講義に講師が持参する)

■学習上の留意点

倫理学

講師：前田 泰徳

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．看護倫理に関する重要な用語や概念を理解する
2．様々なテーマをとおして、現代社会の生命倫理の諸問題を倫理的な観点から考察し、自己の倫理観を高める

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
倫理の基本	1.倫理とは何か 1)生と死について (1)生と死の有様、死生観 2.生命倫理 1)生命倫理 (1)倫理原則 (2)自己決定権 (3)安楽死・尊厳死 2)看護倫理 (1)看護倫理	講義	8
生をめぐる問題	1.生をめぐる問題 1)生殖補助医療 2)出生前診断と人工妊娠中絶 3)先進医療と制度 4)遺伝子診断	講義	6
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

あらかじめ配布するレジュメに目を通し、内容把握に努めてから講義に臨むこと

文化人類学

講師：加藤 英明

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．多様な文化における価値観や信念、生活様式の違いとその背景を理解する
2．人間の健康生活や医療に文化が影響していること、文化や社会の違いによって病気・死に対する考え方が異なることを理解する
3．他者の文化を理解することで、私たちが「あたりまえ」と思っていることに気づき問い直すことができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数（内演習）
人間と文化	1.文化人類学とは 異文化への理解をとおして私たち自身を問い直し、人間をいかにみるかという文化人類学の基本を学ぶ	講義	2
文化の多様性①	1.家族・結婚 世界にはどのような家族・結婚のあり方があるのかについて学ぶ	講義	2
文化の多様性②	1.食と文化 食とは何か。私たちにとってあたりまえとされる習慣を文化という視点から考える	講義	2
文化の多様性③	1.宗教と世界観 宗教とその世界観について、呪術・アニミズム・シャーマニズムの事例をとおして、人間や社会にいかなる意味を与えるのかについて考える	講義	2
人間をみる観点①	1.人間と病 健康・病気に対して人間はどのように対処してきたのか、また、それらが文化により規定されている面を紹介する	講義	2
人間をみる観点②	1.人間と死 人間は死をどのように考え、向き合ってきたのか、文化における死の意味付け、考え方の違いを学ぶ	講義	2
人間と未来	1.技術と文化 技術が人間にどのような影響を及ぼすのか、デジタル時代における医療技術のあり方を考える	講義	2
	期末レポート		1

■成績評価の方法

リアクションペーパー・コメント課題30%・期末レポート70%を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 文化人類学（医学書院）

■学習上の留意点

心理学

講師：Keshia Vianny Sundjaja

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．心の動きや性質を学び、人間の心理状態や認知、行動の認知プロセスについて学ぶ
2．自己と他者のあり方、対人関係の中に生じる心の動きについて知る
3．看護現場に生かすことができる、カウンセリング・傾聴の姿勢を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
心理学とは	1. 心理学とは	講義	2
基礎心理学	1.認知からの人間理解 2.パーソナリティからの人間理解 3.発達からの人間理解	講義	11
人間理解	1.人間関係からの人間理解 2.行動からの人間理解 3.ストレス理論・コーピング行動 4.葛藤・防衛機制	講義	10
カウンセリングと心理療法	1.カウンセリング 2.心理療法 3.カウンセラーの基本的態度 4.ロールプレイ	講義 演習	6 (3)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

授業参加態度20%・筆記試験80%を総合的に評価

■テキスト参考書など

現代心理学の基礎と応用―人間理解と対人援助―(樹村房)

■学習上の留意点

基本的にテキスト(現代心理学の基礎と応用)とプリントを使って行う
プリントは毎回同じサイズで配布する。プリントを綴じるファイルがあると望ましい

教育学

講師：千田 沙也加

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．看護と教育学の基本的な関係を理解する
2．教えること、学ぶことについて基礎的な理解ができる
3．歴史や文化、社会によって多様な教育があることを知る
4．コミュニケーション能力を身につけ、自ら学び、教えられるようにする

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
教育とは	1.看護師を目指す人のための教育学とは	講義	2
学ぶことと教えること	1.人に固有な営みとしての教育学 2.人間形成としての学びと教育	講義	4
人の発達	1.人の発達に関する理論や枠組 2.教育とライフサイクル	講義	4
教育の制度と権利	1. 教育の制度と権利 2.教育の保証と院内学級 3.特別なニーズを持つ子どもの学びと教育	講義	8
学習の原理	1. 教育と認知 1)学習観と学習過程 2)評価について	講義	2
教育の技法	1. 指導の基本 1)指導者の役割と姿勢 2)指導の設計 3)効果的な指導 4)コミュニケーションの技法 5)ディスカッションの技法	講義	9
	筆記試験		1

■成績評価の方法

毎回出席確認もかねてリアクションペーパーの提出もしくは小テスト30%・筆記試験70%
①授業内容を正しく理解できているか(傾聴力)②授業内容から課題を見つけることができるか(課題発見力)③課題に対する自分の考えを自分の言葉で表現できているか(発信力)④自ら主体的に考え、学び取ろうとする姿勢があるか(主体性)　これらを総合的に評価

■テキスト参考書など

看護のための教育学(医学書院)

■学習上の留意点

配布資料をまとめるためのファイルを用意
積極的な授業への参加を期待する

人間発達学

講師：楯 誠

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．人間の発達とは何か、発達にはどのような要因が影響するかを学ぶ
2．人間を発達という視点から捉え、身体的・社会的・心理的に統合された存在であることが理解できる
3．ライフサイクルの各期における発達課題を、発達理論をもとに学習するとともに各発達段階における人々の陥りやすい問題を理解し、看護にいかせる基本的知識を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
人間と発達	1.発達とは何か 2.人間の発達の特徴 3.発達に影響を及ぼす因子 この単元では、生涯発達という観点から「発達」という言葉を捉えなおすとともに、ポルトマンの生理的早産に代表される人間特有の発達の特徴を概観する。また、遺伝と環境という2つの因子を取り上げ、発達との関連を述べる	講義	3
人間発達と理論	1.発達理論 1)エリクソン 2)ボウルビィ 3)レビンソン 4)ピアジェ 2.ストレス理論 この単元では、代表的な発達理論を取り上げその内容を解説する。また、併せて対人援助を考える際に重要な手掛かりになるすとれる理論なども説明する	講義	12
人間のライフサイクルと発達(形態・機能・心理・社会・発達にかかわる問題)	1.乳幼児の心と身体 2.学童期の心と身体 3.思春期の心と身体 4.青年期の心と身体 5.成人期の心と身体 6.老年期の心と身体 この単元では、生涯発達の視点に立ち、乳幼児から老年までの各発達段階における特徴を述べるとともに、各段階における臨床的な問題やそれらに対する援助について基礎的な考えを述べる	講義	14
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護のための人間発達学(医学書院)

■学習上の留意点

人間関係とコミュニケーション

講師：菅 吉基

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．他者と信頼し合える良好な関係を築き継続できることの重要性が理解できる
2．多様な背景を持つ人や複雑な状況に置かれた人を理解し関わることの重要性が理解できる
3．コミュニケーションの基礎を学び、人間関係構築の必要性と方法が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
人間関係とコミュニケーション概論	1.人間関係とは 1)他者との信頼関係 2)良好な関係の継続 2.人間関係・コミュニケーションの在り方 3.現代社会の人間関係・コミュニケーション	講義	4
他者理解の仕方	1.人はどのように他者の行動を理解するのか 2.他者の行動・状態の推論について 3.先入観と他者理解への影響 4.誤った他者理解をなぜしてしまうのか	講義	4
集団への関わり方とその影響	1.他者の存在と個人への影響について 2.集団による問題解決と意思決定について 3.集団規範と同調行動とは 4.リーダーシップの在り方について	講義	4
人間関係の作り方	1.人間関係の成立しやすい条件とは 2.人間関係を維持するにはどうすればよいか、なぜ崩壊するのかについて 3.対人的葛藤を解決するにはどうしたらよいか 4.人間関係の諸相について	講義	4
コミュニケーションの取り方	1.自己意識のコミュニケーションへの影響について 2.コミュニケーションにおける自己開示の重要性について 3.コミュニケーションを取りやすい人の特徴について 4.援助的関わりと攻撃的関わりについて	講義	4
他者の認識とコミュニケーションへの影響	1.印象の形成とコミュニケーションへの影響について 2.過去の記憶とコミュニケーションへの影響について 3.なぜ他者の認識が歪むのか 4.他者の認識の個人差について	講義	4
他者の状態・態度の把握と人間関係	1.他者の態度が変容する要因について 2.態度の情報処理理論について 3.他者から理解を得られるコミュニケーションとは 4.コミュニケーションにおける相互理解の重要性について	講義	4
人間関係とコミュニケーション総論	1. 人間関係論講義内容まとめ 2. コミュニケーションスキルの活用について	講義	1
	筆記試験		1

■成績評価の方法

レポート25%・テスト75%

■テキスト参考書など

系統看護学講座 人間関係論(医学書院)

■学習上の留意点

本講義では、コミュニケーション能力を高めることを目的として、原則、各講義ごとに30分程度、質疑応答の時間を設けることとする。日常における自己・他者の人間関係、コミュニケーションに注意関心を持ち、質問・疑問事項を考え、各講義にご参加頂ければ幸いである。また、適宜、ワークを実施し、体感的に人間関係とコミュニケーションの基礎について学びを深めることとする。

生活と社会学

講師：佐橋 寿実

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．個人と社会との関係性を理解し、生活者としての個人を理解する
2．個人と健康生活を保障するための社会つくりを考えることができる
3．自分と自分を取り巻く社会との関係をとらえ直し、生活者としての視野を広げる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
社会と社会学	1.社会とは/社会学とは 2. 日常生活と相互行為 1)概念 2)実践 3. 社会生活と個人 4. 社会集団 5. 社会構成 6. 社会変動	講義	7
生活と地域社会	1.地域コミュニティ 1)地域の概念 2)コミュニティの概念 3)地域社会の集団 2.地域コミュニティと保健医療 1)地域コミュニティと保健	講義	2
家族	1.家族とは何か 2.家族の変動	講義	2
人々の生活と社会問題	1.ジェンダーとは 2.セクシュアリティとは 3.身近な社会問題を考える	講義	3
	筆記試験		1

■成績評価の方法

授業態度（発言やリアクションペーパーへの記入）・筆記試験を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 社会学(医学書院)

■学習上の留意点

笑いの科学

講師：山本 律江

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．笑いが身体面、精神面に影響することが理解できる
2．対象との関係の構築に笑いが有効であることを学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
笑いの効用	1.笑う門には福来る 1)笑いの持つ力を考える 2)運動効果、ストレス解消・緩和 3)免疫力の向上とバランス調整・脳の働きの活発化・血行促進 4)自律神経のバランスを整える・幸福感と鎮痛作用 5)より良い人間関係・信頼関係の構築	講義 演習	5 (2)
笑いのメカニズム	1.人はなぜ笑うのか 1)快の笑い 2)現実と概念の不一致の笑い 3)緊張緩和の笑い 4)社交上の笑い 5)笑いの効果的活用によるコミュニケーションの成立	講義 演習	4 (2)
対象の状況に応じての笑い	1．さまざまな場面での笑い 1)ドイツのことわざ 「ユーモアとは“にもかかわらず笑う”ことである」から考える 2)laughとsmile	演習	2 (2)
笑いを用いたリラクゼーション	1.笑いがもたらすリラクゼーション効果 1)表情筋ストレッチ 2)笑いじゃんけん	演習	4 (4)

■成績評価の方法

課題レポート・授業・演習の参加姿勢を総合的に評価

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

グループディスカッション・発表を適宜取り入れる

スポーツと健康

講師：榊原 浩文

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．からだを動かし、自分で自分を癒す方法を学ぶ
2．からだを通してこころとの結びつきを考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
ヨガについて	1. ヨガの発祥と歴史 2. ヨガの効果と健康 1)自律神経の調整(呼吸法) 2)血流の促進とデトックス	演習	2 (2)
ヨガの実施	1. 上半身、下半身ほぐし 2. 背骨調整ポーズ 3. 呼吸法 4. 体側調整強化ポーズ	実技	12
	試験		1

■成績評価の方法

実技の到達状況・出席状況・授業参加度を総合的に評価

■テキスト参考書など

特になし

■学習上の留意点

ジャージを着用し体育館シューズを持参

レクリエーションと健康

講師：脇坂 康彦

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．健康の回復、維持、向上にむけて、心身の活動性が高まるレクリエーションの意義がわかる
2．対象の特徴にあわせ、安全に配慮したレクリエーションを考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
レクリエーションとは	1.レクリエーションの意義 1)身体的意義 2)精神的意義 3)社会的意義 2.子どもにとってのレクリエーション 1)発達と遊び 3.高齢者にとってのレクリエーション 1)遊びりテーション 2)認知症とレクリエーション 回想法・音楽療法・アクティビティ 4.精神障がい者にとってのレクリエーション 1)治療とレクリエーション	講義	4
レクリエーションの計画・実施	1.子どものレクリエーション 2.高齢者のレクリエーション 3.精神障がい者のレクリエーション	演習	10 (10)
レクリエーションの評価	1.評価 2.修正		1

■成績評価の方法

パフォーマンス評価

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅰ

講師：今井 英夫、佐野 幹
渡部 敬俊

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．看護の視点からからだの構造と機能を学ぶ必要性が理解できる
2．内部環境の恒常性を維持するための物質の流通①媒体：血液のしくみ、②流通路：血管・リンパ管のしくみ、③原動力：心臓のしくみが理解できる
3．内部の恒常性を維持するための調節機構①神経性調節情報を収集し、判断して伝達するしくみ、②液性調節：ホルモンのしくみが理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護の土台となる形態と機能	1.何のための生活行動か 1)生きているとはどういうことか 2.形態と機能からみた人体 1)人体の構造と区分 2)細胞の構造 3)体液とホメオスタシス	講義	9
恒常性維持のための物質の流通	1.流通の媒体-血液- 1)血液の成分 2)血液の恒常性 3)物質の運搬 4)侵入物に対する防衛 2.流通路のしくみ 1)血管の構造 2)全身の動静脈 3)リンパ管とリンパ節 3.流通の原動力 1)心臓の構造と血液の流れ 2)心臓の拍出機能 4.血液型	講義	10
恒常性維持のための調節機構	1.神経性調節のしくみ 1)神経系の構造 2)脊髄と脳 3)脊髄神経と脳神経 4)脳の高次機能 5)運動機能と下行伝導路 6)感覚機能と上行伝導路 7)情報伝達のしくみ 2.液性調節のしくみ 1)自律神経による調節 2)内分泌系による調節 3)全身の内分泌腺と内分泌細胞 4)ホルモン分泌の調節と実際	講義	10
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護形態機能学(日本看護協会出版会)
系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学(医学書院)
ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅱ

講師： 丹羽 恵理、天野 果奈
山下 千代美

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活行動「①動く②息をする③眠る・休息する」ことの意義としくみが理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
動くためのしくみ	1.動くことの意義 1)姿勢-体位 2)歩くまでの過程 3)立位の保持・良肢位 2.からだを支える・からだを動かすしくみ 1)骨格(体幹・体肢)とは 2)骨の形態と構造 3)骨の連結-関節 4)骨格と筋と筋の収縮 5)骨格と筋(体幹・体肢) (1)骨格シャツ作り 3.日常生活行動と基本的な動き	講義 演習	13 (4)
息をするためのしくみ	1.息をすることの意義 2.息をするための構成 1)上気道 2)下気道と肺 3)胸膜・縦隔 (1) 肺のTシャツ作り 3.息をするためのしくみ 1)呼吸運動 2)内呼吸 外呼吸 3)呼吸気量 4)ガス交換と運搬 5)呼吸運動の調節 6)呼吸運動の異常と病的呼吸	講義 演習	12 (4)
眠る・休息するためのしくみ	1. 眠る・休息の意義 2. からだのリズム 3. 眠り 1)ノンレム睡眠 2)レム睡眠 3)睡眠パターン	講義	4
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

看護形態機能学(日本看護協会出版会)
系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学(医学書院)
ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅲ

講師：天野 果奈、奥山 美佐恵

単位数：1単位　　単位時間：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活援助 「①食べる②トイレに行く」ことの意義としくみが理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
食べることに必要なしくみ	1.食べることの意義 2.食べるための構成 3.食べるためのしくみ 1)摂食動作 2)咀嚼・味わう 3)嚥下 4)消化 5)吸収	講義 演習	15 (4)
トイレに行くためのしくみ	1.トイレに行くことの意義 2.尿を生成するしくみ 1)腎臓 2)排尿路 3)体液の調節 4)排尿するしくみ 3.便を生成するしくみ 1)大腸の作用 2)排便するしくみ 4.トイレに行くためのしくみ 1)尿意・便意 2)トイレまでの移動・排泄行動	講義 演習	14 (6)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

看護形態機能学(日本看護協会出版会)

系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学(医学書院)

ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅳ

講師：萱野 明子、奥山 美佐恵
川部 幹子、白木 精、石﨑 敦子

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活行動「①コミュニケーション行動（話す・みる・きく）②お風呂に入る③子どもを産む」ことの意義としくみが理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
コミュニケーション行動のしくみ	1.コミュニケーションの意義 2.コミュニケーション行動のしくみ 1)きくためのしくみ (1)耳の構造 (2)聴覚 (3)平衡感覚 2)みるためのしくみ (1)眼球の構造と付属器 (2)視覚 3)話すためのしくみ (1)声を出す (2)言葉 4)コミュニケーション(話す)行動	講義 演習	14 (4)
お風呂に入るしくみ	1.お風呂に入ることの意義 2.皮膚のしくみ 1)皮膚の組織構造 2)皮膚の付属物 3.皮膚・粘膜における生体防御機能 4.体温調節のしくみ	講義	4
子どもを産むしくみ	1.女性と男性の生殖のしくみ 2.生殖を支えるしくみ	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

看護形態機能学(日本看護協会出版会)
系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学(医学書院)
ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版)

■学習上の留意点

看護における形態と機能Ⅴ

講師：渥美 美保

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．からだのしくみがどのように日常生活行動を成し遂げているかを明らかにする

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
日常生活行動を成り立たせているからだのしくみについて考える	1.授業の進め方 2.研究テーマを決める 1) 日常生活行動を振り返り疑問や興味のあるからだのしくみを取り上げる 3.探究するテーマを調べる	講義 演習	11 (8)
日常生活行動を成り立たせているからだのしくみについて調べたことを共有する	1.資料作成 2.発表・学びの共有	講義	4

■成績評価の方法

演習への取り組み姿勢・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など

看護形態機能学（日本看護協会出版会）

系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）

ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）

■学習上の留意点

看護における臨床生化学

講師：高崎 昭彦

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．生体の成り立ちと、生体を構成している基本物質について学ぶ
2．基本物質の性質・特性・作用を学び、どのように健康が維持されていのるかを学ぶ
3．生体で起きている化学反応から、正常の維持や正常から異常へ変化する過程を学び、栄養状態のアセスメントができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数（内演習）
生体の成り立ちと生体分子	1.生体の成り立ち 2.個体、器官、組織、細胞 3.真核細胞の構造と機能 4.生体を構成する物質 5.生体で起きている化学反応	講義	2
タンパク質の性質	1.タンパク質の分類 2.タンパク質とアミノ酸	講義	1
酵素の性質と働き	1.酵素 2.酵素の種類	講義	1
生体内における糖質の代謝	1.糖とは 2.糖の分類 3.血糖の調節 4.糖尿病	講義	1
生体内における脂質の代謝	1.脂質の種類 2.脂質の代謝 3.脂質代謝異常	講義	1
生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	1.脱アミノ反応 2.糖新生 3.エネルギー代謝	講義	2
生体内における核酸の役割	1.遺伝情報 2.核酸と構造 3.DNAの複製 4.タンパク質を作るための核酸 5.遺伝病	講義	2
体液	1.水 2.無機質 3.酸塩基平衡 4.エコノミー症候群	講義	2
ホルモン	1.各種ホルモン 1)視床下部、下垂体ホルモン 2)甲状腺、副甲状腺ホルモン 3)膵臓ホルモン 4)副腎皮質・副腎髄質ホルモン 5)性ホルモン 6)消化管ホルモン 2.内分泌疾患	講義	3
ビタミン	1.水溶性ビタミン 1)ビタミンB1、B2、B6、B12、C 2)ナイアシン、ビオチン、葉酸 2.脂溶性ビタミン 1)ビタミンA、D、E、K 3.ビタミン欠乏症	講義	2
内部環境の恒常性	1.精神性・神経性・ホルモン調節 2.酵素による代謝調節 3.フィードバック調節	講義	2

消化と吸収と栄養価	1.体に必要な栄養素 2.栄養素と食品 3.食品の摂取・消化・吸収 4.食品中のエネルギー量 5.体が必要とするエネルギー量	講義	4
免疫反応と疾患	1.液性免疫・細胞性免疫 2.アレルギー 3.後天性免疫不全症候群 4.自己免疫疾患	講義	2
栄養状態のアセスメント	1.自己の食生活を振り返り、アセスメント	講義	4
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験・レポートを総合的に評価

■テキスト参考書など
ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能[2]臨床生化学(メディカ出版)

■学習上の留意点

病因論

講師：福山 隆一

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．健康障害と治療を学ぶための基礎として、疾病の原因・発症機序を学ぶ
2．老化と死について学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
疾病とは	1.疾病とは 2.疾病の原因 1)内因、外因 2)医原病と公害病 3.疾病の分類	講義	2
身体の病的変化	1.先天異常と遺伝子異常 1)先天異常とは 2)遺伝子異常とは 2.代謝異常 1)萎縮、肥大と過形成、壊死 2)物質沈着 3)代謝障害とは 3.循環障害 1)うっ血 2)虚血 3)血栓、塞栓 4)出血、凝固 5)浮腫 4.炎症と免疫 1)炎症の原因、経過、治療 2)免疫 (1)免疫とは (2)免疫に関与する細胞 (3)抗体、補体 (4)能動免疫、自然免疫 5.再生と修復 1)再生とは 2)創傷治癒と肉芽組織 6.腫瘍 1)腫瘍の分類 2)悪性腫瘍の転移と進行度	講義	10
老化と死	1.細胞の老化と個体の老化 2.加齢に伴う諸臓器の変化 3.個体の死	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学(医学書院)

■学習上の留意点

臨床薬理学

講師：田中 廣美

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．薬物の作用・副作用を知り、生体に及ぼす影響が理解できる
2．安全に与薬援助ができるための基礎知識である薬物の取り扱い、管理方法が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
総論	1.薬理学の概念 2.薬物動態学・薬力学 3.薬物相互作用 4.薬効の個人差 5.薬物作用の有益性と危険性(小児、妊婦、高齢者) 6.薬と法律 7.医薬品の安全な使用と管理	講義	4
抗悪性腫瘍薬	1.抗悪性腫瘍薬 1)抗がん剤治療薬 2)免疫治療薬	講義	4
末梢神経系作用薬	1.自律神経作用薬 2.筋弛緩薬 3.局所麻酔薬	講義	2
中枢神経系作用薬	1.麻酔 2.疼痛 3.向精神薬	講義	6
心臓・血管作用薬	1.抗高血圧薬 2.心臓作用薬 3.輸液・腎臓作用薬	講義	3
抗感染症薬	1.抗感染症薬 2.消毒薬	講義	2
呼吸器・消化器・生殖器系薬	1.呼吸器系作用薬 2.消化器系作用薬 3.生殖器系作用薬	講義	4
その他の薬剤	1.抗炎症薬 2.抗アレルギー薬 3.眼科・皮膚科薬 4.漢方薬 5.輸血	講義	4
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学(医学書院)

■学習上の留意点

微生物学

講師：河内 誠

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．人間の健康を脅かす病原微生物の種類と性質を学ぶ
2．感染とその生体防御機構を学ぶ
3．感染予防の基礎が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
微生物の種類と特徴	1.人間の生活に関わる微生物	講義	2
感染と発病	1.感染とは 2.感染の成立から発症 3.感染に対する生体防御機構 4.感染症の検査法	講義	10
感染の予防	1.滅菌と消毒 2.院内感染とその予防	講義	6
主な病原微生物と感染症	1.細菌感染症 2.真菌感染症 3.原虫感染症 4.ウイルス感染症	講義	11
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学(医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅰ

講師：古市 昌宏、藤林 孝義
加藤 宗一

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．脳・神経機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2．運動機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
脳・神経機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)意識障害 2)高次脳機能障害 3)運動機能障害 4)感覚機能障害 5)反射性運動障害 6)頭蓋内圧亢進症状 7)髄膜刺激症状 2.主な検査と診断の流れ 1)神経学的検査 2)脳脊髄液検査 3)脳血管撮影 4)CT 5)MRI 6)SPECT 3.主な疾患と治療 1)脳血管障害 2)脳腫瘍 3)頭部外傷 4)脊髄疾患 5)神経・筋疾患 6)脱髄・変性疾患 7)認知症	講義	15
運動機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)疼痛 2)変形 3)関節運動の異常 4)神経の障害 5)異常歩行 2.主な検査と診断の流れ 1)関節可動域・筋力 2)X線検査 3)MRI 4)脊髄造影検査 5)骨密度の測定 6)筋電図検査 7)関節液検査 3.主な疾患と治療 1)骨折 2)脱臼 3)神経の損傷 4)筋・腱・靭帯の損傷 5)骨・関節の炎症性疾患 6)骨腫瘍および軟部腫瘍 7)代謝性骨疾患 8)脊椎疾患	講義	14
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験

■テキスト参考書など
系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[10]運動器(医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅱ

講師：闈目 美穂子、田中 美穂

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．呼吸機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2．循環機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
呼吸機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)喀痰 2)血痰・喀血 3)せき 4)胸痛 5)呼吸困難 6)喘鳴 7)異常呼吸 2.主な検査と診断の流れ 1)喀痰検査 2)胸水検査 3)単純X線検査 4)CT 5)気管支鏡検査 6)呼吸機能検査 7)血液ガス分析 3.主な疾患と治療 1)感染性呼吸器疾患 2)間質性肺疾患 3)気道疾患 4)肺腫瘍 5)気胸	講義	15
循環機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)胸痛 2)動悸 3)呼吸困難 4)浮腫 5)チアノーゼ 6)失神 7)四肢の疼痛 8)ショック 2.主な検査と診断の流れ 1)心電図 2)心エコー 3)心臓カテーテル法 4)血行動態モニタリング 3.主な疾患と治療 1)虚血性心疾患 2)心不全 3)血圧異常 4)不整脈 5)弁膜症 6)心膜炎 7)心筋疾患 8)動脈系疾患 9)静脈系疾患	講義	14
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[3]循環器(医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅲ

講師：福島 庸晃、小島 博
阪野 里花

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．血液・造血機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2．アレルギー及び膠原病による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
3．泌尿器及び腎機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
血液・造血機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)貧血 2)白血球増加症 3)白血球減少症 4)脾腫 5)リンパ節腫脹 6)出血傾向 2.主な検査と診断の流れ 1)末梢血液検査 2)骨髄穿刺・生検 3)出血傾向の検査 3.主な疾患と治療 1)赤血球系の疾患 2)白血球系の疾患 3)リンパ網内系の疾患 4)出血性疾患	講義	10
泌尿器及び腎機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)尿の異常 2)排尿障害 3)浮腫 4)水と電解質の異常 5)高血圧 6)尿毒症 7)疼痛 2.主な検査と診断の流れ 1)尿検査 2)腎機能検査 3)X線撮影 4)膀胱鏡 5)生検 3.主な疾患と治療 1)腎不全 2)腎炎 3)ネフローゼ症候群 4)尿路結石症 5)尿路・性器の感染症 6)尿路・性器の腫瘍 7)男性機能不全	講義	11

アレルギー及び膠原病の治療	1. アレルギー及び膠原病の主な症状と病態生理 1)アレルギー反応 2)関節痛・関節炎 3)皮疹 4)筋痛・筋力低下・筋炎 5)腎炎 6)血管炎 7)レイノー現象 2. アレルギー及び膠原病の主な検査と診断の流れ 1)血液検査 2)スキンテスト 3)免疫学検査 4)その他の検査 3. アレルギー及び膠原病の主な疾患と治療 1)アレルギー 2)アナフィラキシー 3)膠原病 4)膠原病類縁疾患	講義	8
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験

■テキスト参考書など
系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[11]アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器(医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅳ

講師：佐々木 洋治、小林 豊
山本 淳史、和田 直樹

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．消化機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2．手術による身体への影響を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
消化機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)嘔気・嘔吐 2)腹痛 3)吐血・下血 4)便秘 5)下痢 6)腹部膨満 7)食欲不振と体重減少 8)黄疸 9)肝性脳症 2.主な検査と診断の流れ 1)糞便検査 2)肝機能検査 3)超音波検査 4)内視鏡検査 5)肝生検 6)X線検査 7)CT 8)MRI 3.主な疾患と治療 1)食道癌 2)胃・十二指腸潰瘍、胃癌 3)腸炎、イレウス、大腸癌 4)肝炎、肝硬変、肝癌 5)胆石症、胆嚢癌 6)膵炎・膵癌	講義	10
手術・外科療法	1.手術侵襲と生体の反応 2.炎症 3.腫瘍 4.麻酔法 1)麻酔とは 2)麻酔の種類 3)手術前・中・後の管理 5.外科的基本手技 1)創傷管理 6.術後合併症とその予防 7.外科的感染対策	講義	10
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[5]消化器（医学書院）
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅴ

講師：武石 宗一、川部 幹子
白木 精、小島 伸恭

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．内分泌・代謝機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ
2．感覚機能の障害による症状と病態生理、診断法、主な疾患と治療を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
内分泌・代謝機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)体重増加・減少 2)食欲亢進・不振 3)神経・筋症状 4)高血糖に伴う身体症状 5)低血糖に伴う身体症状 2.主な検査と診断の流れ 1)ホルモン検査 2)負荷試験 3.主な疾患と治療 1)視床下部、脳下垂体の疾患 2)甲状腺機能亢進症・低下症 3)クッシング症候群、アジソン病 4)糖尿病 5)高脂血症、肥満症、痛風	講義	17
感覚機能の障害と治療	1.主な症状と病態生理 1)視力障害、視野異常、色覚異常、飛蚊症 2)難聴、耳痛・耳漏、耳鳴、眩暈、鼻閉・鼻漏、鼻出血、咽頭痛 3)発疹、掻痒、皮膚の老化 2.主な検査と診断の流れ 1)視力検査、視野検査、屈折検査、眼底検査、眼圧検査 2)聴力検査、平衡機能検査、副鼻腔検査、耳管通気検査 3)免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査、病原微生物の検査 3.主な疾患と治療 1)白内障、緑内障、網膜剥離、結膜・角膜の炎症性疾患 2)炎症性耳疾患、突発性難聴、、メニエール病、炎症性鼻疾患、扁桃炎、耳下腺炎 3)湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、皮膚癌、皮膚感染症、熱傷、薬疹	講義	12
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[13]眼(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[14]耳鼻咽喉(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚(医学書院)

■学習上の留意点

健康障害と治療Ⅵ

講師：木村 直美、尾崎 隆男

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．性のライフサイクルにおける主な健康障害と治療を学ぶ
2．女性のマタニティサイクルにおける正常な経過と主な健康障害と治療を学ぶ
3．小児期における主な健康障害と治療を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
女性のライフサイクルにおける健康障害と治療	1.思春期女性の健康障害 1)月経前症候群 2)月経困難症 3)10代の妊娠中絶 4)10代の性感染症 5)10代の性暴力被害 2.成熟期女性の健康障害 1)不妊 2)望まない妊娠 3)育児不安 4)産後うつ病 5)性暴力(DV) 6)子宮内膜症・子宮筋腫 3.更年期女性の健康障害 1)更年期障害(不定愁訴) 2)乳癌・子宮癌・卵巣癌 4.老年期女性の健康障害 1)子宮下垂・子宮脱 2)老人性膣炎・外陰炎	講義	8
女性のマタニティサイクルにおける経過と主な健康障害と治療	1.妊娠の成立と妊娠経過 2.妊娠の健康障害と治療 1)子宮外妊娠 2)ハイリスク妊娠 3)妊娠期の感染症 4)妊娠悪阻 5)妊娠高血圧症候群 6)血液型不適合妊娠 7)多胎妊娠 8)切迫流産・切迫早産 3.正常分娩の経過 4.産道の健康障害と治療 1)産道・娩出力・胎児の異常による分娩障害 2)胎児の付属物の異常 3)分娩時の損傷 4)分娩直後の異常 5)分娩時異常出血 6)産科処置と産科手術 5.正常褥婦の経過 6.褥婦の健康障害と治療 1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱	講義	8

小児期における主な健康障害と治療	1.新生児期に健康問題・障害がある小児 1)新生児疾患 2.代謝系に障害がある小児 1)小児の代謝系の構造と機能の特徴 2)代謝系の障害 3.免疫系に障害がある小児 1)小児の免疫機能 2)免疫系の障害 4.呼吸器系に障害がある小児 1)小児の呼吸器系の構造と機能の特徴 2)呼吸器系の障害 5.循環器系に障害がある小児 1)小児の循環器系の構造と機能の特徴 2)循環器系の障害 6.消化器系に障害がある小児 1)小児の消化器系の構造と機能の特徴 2)消化器系の障害 7.血液系に障害がある小児 1)小児の血液・造血系の構造と機能の特徴 2)血液・造血系の障害 8.腎・泌尿器系に障害がある小児 1)小児の腎・泌尿器系の構造と機能の特徴 2)腎・泌尿器系の障害 9.神経系に障害がある小児 1)小児の神経系の構造と機能の特徴 2)神経系の障害 10.運動系に障害がある小児 1)小児の運動系の構造と機能の特徴 2)運動系の障害 11.精神に障害がある小児 1)小児の心の発達 2)精神の障害 12.感染症に罹患した小児 1)ウイルス感染症と予防接種 2)感染症疾患	講義	13
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験

■テキスト参考書など
系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器(医学書院)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[1]概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[2]母性看護の実践(メディカ出版)
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)

■学習上の留意点

救急救命医療

講師：小林 豊

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．救命救急に必要な基本知識を学ぶ
2．救命を必要とする患者の身体的特徴と救命処置の実際を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
救急救命の基本知識	1.救急医療とは 1) 救急医療システム 2) プレホスピタル 2.救急活動と救命の連鎖	講義	4
救命を要する患者のアセスメントと対応	1.救命を必要とする感受亜の身体的初見と応急処置 1)呼吸不全 2)ショック 3)大量出血 4)意識障害 5)心停止	講義	6
救命を必要とする患者の救命処置の実際	1.救急処置と看護 ＜技術演習＞ 1)一次救命処置(BLS)(緊急時の応援要請ふくむ) 2) 小児の心肺蘇生 3) 止血法の実施 4) 救急搬送	演習	4 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・演習レポートを総合的に評価する

■テキスト参考書など

系統看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院)

■学習上の留意点

医療概論

講師：齊藤 雅也

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．医学の動向をふまえて現代の医療の考え方、医療のシステムを学ぶ
2．生命倫理・QOLの考え方を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
医学、医療とは	1.医学の定義 2.医道 3.サイエンスとアート 4.医療と経済	講義	2
人間の生命を考える	1.生とはなにか 2.医の倫理と生命倫理 3.生きることの質	講義	2
健康・病気・医学の体系	1.健康とは 2.病気の定義・分類 3.病気と心とはたらき 4.医学の体系 5.予防医学の重要性と実際	講義	4
わが国の医療システム	1.医療関係職種とチーム医療 2.医療施設と公衆衛生 3.医療保険と介護保険 4.医療と経済 5.高齢社会と在宅ケア	講義	2
現代医療の問題	1.インフォームド・コンセントとQOL 2.医療事故と患者の権利 3.情報開示と個人情報 4.脳死と臓器移植 5.告知 6.終末期医療 1)ホスピス 2)緩和ケア 3)安楽死・尊厳死	講義	2
医学と看護の生命へのアプローチ	1.近代医療における医学と看護 2.現代医療への反省 3.キュアからケアへ 4.全人的を与えるアート 5.アートの実践家になるため	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

日野原重明 医学概論(医学書院)

■学習上の留意点

看護と法律

講師：白村 大勲

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．医療者として知らなくてはならない関係法令を学び、専門職業人である看護師の責務が理解できる
2．医療事故の事例を通して医療の安全確保の重要性と看護職の法的責任が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
法の概念	1.法の概念 2.衛生法の意義 3.衛生法の沿革 4.衛生法の分類 5.厚生行政のしくみ	講義	2
医療に関する法律	1.医療法規 1)保健師助産師看護師法 2)医師法・医療法 3)関係資格法 2.医療を支える法 1)臓器の移植に関する法律 3.医療過誤	講義	4
薬に関する法律	1.薬事法規 1)薬事法 2)薬剤師法 3)毒物及び劇薬取締法 4)麻薬及び向精神薬取締法 5)大麻取締法、あへん法、覚せい剤取締法 6)安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律	講義	2
労働に関する法律	1.労働関係法規 1)労働基準法 2)育児休業 3)介護休業など労働者の福祉に関する法律	講義	2
看護職と関係法規	1.看護師等の人材確保に関する法律 2.個人情報保護法 3.看護過誤と法的責任「事例検討」	演習	2 (2)
成熟する社会と人々の意識改革	1.インフォームド・コンセントと医療情報の開示 1)ふえつづける医療訴訟 2)法律の目から見た医療 3)インフォームド・コンセントの法理 4)医療情報の開示と診療記録	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令(医学書院)

■学習上の留意点

公衆衛生学

講師：江口 智美、田中 ひとみ

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．公衆衛生の意義を学ぶ
2．公衆衛生について学び、疾病の予防・健康の保持増進のために環境調整の必要性を学ぶ
3．公衆衛生の現状を知り、現在抱えている問題が理解できる
4．健康づくりの基盤である地域保健・環境保健活動の実際を学ぶ
5．保健医療福祉の連携の必要性を学ぶ
6．人々の健康保持・増進に公衆衛生活動の１つである健康教育が重要であることを学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
公衆衛生の概念	1.健康と公衆衛生 2.公衆衛生のあゆみ 3.公衆衛生の地域活動 4.国際社会の公衆衛生	講義	2
公衆衛生活動とは	1.公衆衛生の定義 2.公衆衛生の領域と活動の特徴 3.プライマリヘルスケア 4.ヘルスプロモーション 1)健康教育とヘルスプロモーション 2)ヘルスプロモーションの進め方 3)健康教育とヘルスプロモーションの具体例 4)ヘルスプロモーションの今後の展開 5.包括的保健医療 6.国の責務 7.国際的連携	講義	2
健康の指標	1.人口動態統計、人口問題 2.健康状態と受療状況	講義	2
環境と公衆衛生(人間と生活環境、環境問題の動向と公衆衛生)	1.わが国の環境保全対策 2.地球環境汚染 3.水・空気・土壌 4.感覚公害(騒音・振動・悪臭) 5.公害健康被害補償制度 6.ごみ・廃棄物 7.住環境	講義	4
食と公衆衛生(健康維持と食品保健)	1.食品の安全性 2.食品衛生管理 3.国民の栄養	講義	2
感染症と予防	1.感染症とは 2.感染症と成立要因 3.感染症の流行感染症の流行・種類・動向 4.感染症予防の基本 5.感染症予防対策、主要な感染症	講義	2
公衆衛生と健康教育	1.生活習慣病	講義	2
これからの公衆衛生の課題	1.看護をめぐる公衆衛生の動き 2.これからの保健・医療・福祉 3.社会経済の発展と公衆衛生 4.科学技術の進歩の公衆衛生 5.国際化社会における公衆衛生 6.公衆衛生における人材育成	講義	4
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など
わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)
国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

社会福祉

講師：千葉 忠道

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者視点から理解する
2．看護師として実践に応用できるような社会福祉及び社会保障の法制度・サービス等の知識を獲得する
3．ソーシャルワークの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する
4．看護専門職として、保健・医療・福祉の多職種連携の実践ができるような力量を醸成する

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
福祉制度と福祉政策	1.福祉制度・福祉政策の概念と理念、生活問題、福祉ニーズと資源、人口統計・動態	講義	2
社会福祉の歴史	1.西欧の歴史、日本の歴史、現代社会における生活問題・福祉課題、福祉政策、今後の社会福祉についての理解	講義	2
社会福祉の法制度、組織と実施体制	1.社会福祉法、福祉六法、福祉行財政の理解 2.社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人等の組織・機関と専門職・従事者の役割の理解	講義	2
社会保障①	1.社会保障の概念や対象及び理念、社会保障の財源と費用、社会保障制度の体系、諸外国における社会保障制度の概要	講義	2
社会保障②	1.年金保険制度の具体的概要、医療保険制度の具体的概要、社会手当の具体的概要	講義	2
社会保障③	1.雇用保険制度の具体的概要、労災保険制度の概要、主要な労働関係法規、事例	講義	2
生活保護制度と生活困窮者支援	1.生活保護法の概要、保護の動向、貧困対策、生活福祉資金、生活困窮者自立支援法の概要	講義	2
高齢者福祉と介護保険制度①	1.高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の生活実態と課題、高齢者虐待防止法、介護予防、介護保険法の概要①	講義	2
高齢者福祉と介護保険制度②	1.介護保険法の概要②、介護保険サービスの種類、介護支援専門員等専門職の役割、連携の方法、地域包括支援センターの役割	講義	2
障害者福祉と障害者総合支援法	1.障害者の定義と実態、理念、制度の変遷の理解、障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法の理解	講義	2
児童家庭福祉制度	1.児童家庭福祉制度、児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、DV防止法の理解 児童福祉施設、児童相談所などの役割を理解する	講義	2
ソーシャルワークの理論と方法①	1.ソーシャルワークの理念、理論と方法、専門職の範囲、面接技術、ジェノグラム、エコマップ	講義	2
ソーシャルワークの理論と方法② 地域包括ケアシステム	1.ケアマネジメントの展開過程、集団を活用した支援(グループワーク)、多職種連携、地域包括ケアシステム	講義	2
地域包括ケアシステム	1. 地域包括ケアシステム 2. 地域共生社会の構築 3. 多機関・多職種連携	講義	2
まとめ	1.本科目で履修した内容のまとめ	講義	1
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験

■テキスト参考書など
ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障[3]社会福祉と社会保障(メディカ出版)

■学習上の留意点
毎回資料を配付するので、分類・整理・保存し、復習すること。

リハビリテーション論

講師：足立 勇

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．リハビリテーションの考え方を理解し、広義に捉えることができる
2．基本的なリハビリテーション方法を学ぶとともにチーム医療での看護の役割を理解できる
3．人がよりよく生きるために効果的で、継続したリハビリテーションの実際を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
リハビリテーションの考え方	1.リハビリテーションの理念 2.リハビリテーションの対象とその理解 3.リハビリテーションの目標 4.リハビリテーション活動の過程 5.リハビリテーションの種類と特徴 6.リハビリテーションとバリアフリー	講義	2
リハビリテーションにおける各職種のかかわり	1.チームケアの必要性と利点 2.リハビリテーションにおける各職種のかかわり 3.チーム間の連携のあり方 4.チームケアのプロセス	講義	2
リハビリテーションにおける評価	1.リハビリテーション医療における到達目標と評価 2.評価における看護師の役割 3.障害の評価	講義	2
リハビリテーションの実際	1.作業療法について 1)高次脳機能障害とADL 2.理学療法 1)移乗動作 2)杖・歩行器の合わせ方、使用方法 3言語療法について 1)言語障害、コミュニケーション障がいのリハビリテーション 2)摂食・嚥下機能障害のリハビリテーション 〈技術演習〉 自動運動・他動運動 嚥下訓練・呼吸リハビリテーション	講義 演習	8 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護(メヂカルフレンド社)

■学習上の留意点

エンド・オブ・ライフケア

講師：奥村 智宏、高倉 梢
祖父江 正代

単位数：1単位　　時間数：30時間　（通年）

授業学年：2学年

■学習目標

1．すべての人に死はおとずれるものであり、いつかくる死について自己の考えを持つことができる
2．最期までその人らしい生と死を支える看護を考える
3．多職種の専門性を理解し、専門職とつながるエンド・オブ・ライフケアを考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
エンド・オブ・ライフケアとは	1.エンド・オブ・ライフケアの背景 1) ターミナルケア、緩和ケア 2) 日本の現状とエンドオブライフケア 2.エンド・オブ・ライフケアの概念 3.アドバンスケアプランニング 4.エンドオブライフケアとコミュニティ 5.看護実践の構成要素 1) 症状マネジメント 2) 治療の選択 3) 家族ケア 4) 患者の価値の尊重	講義	6
意思決定支援	1.患者中心の意思決定とは 1)意思決定のプロセス 2)インフォームドディシジョンメイキング （患者が自分で決める） 3) シェアードディシジョンメイキング （医療者と患者が一緒に決める）	講義	4
症状マネジメント	1.人生最期の時を過ごす人への看護 1)症状マネジメント 2) 緩和ケアと看護 3)臨死期の看護	講義 演習	10 (8)
チームで行うエンド・オブ・ライフケア	1.地域で最期まで暮らせるためのエンド・オブ・ライフケア 2.病とともに生きる人のエンドオブライフケア 3.エンドオブライフケアを支える地域づくり 1) 専門職のつながりによるエンド・オブ・ライフケアを支える基盤づくり	講義 演習	10 (8)

■成績評価の方法

筆記試験・レポートを総合的に評価する

■テキスト参考書など

看護実践にいかす エンド・オブ・ライフケア(日本看護協会出版会)

■学習上の留意点

この講義は通年で行います。各発達段階や健康障害を有する人の看護の特徴を学びながら、講義を進めます。

基礎看護学概論

講師：渥美 美保

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．看護の基本となる概念や看護の変遷から看護とは何かについて考える
2．看護の提供の場とその特徴を学ぶ
3．専門職としての看護の機能を保健・医療・福祉の幅広い視野で捉える
4．専門職業人として看護倫理に関する知識学び、倫理敵姿勢について考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護の本質	1.看護とは何か 1)看護のイメージ、看護への期待 2)クリティカルシンキングとリフレクション 2.看護の変遷 1)看護の歴史 2)看護の基本概念	講義	4
看護の対象としての人間	1.看護の対象としての人間 1)人間とは 2)人間の成長と発達 3)人間と環境 4)人間の欲求 5)患者の心理反応 6)健康とは 7)生活とは	講義 演習	10 (6)
専門職としての看護	1.看護理論 1)看護理論とは (1)ニード論 (2)人間関係論 (3)ケアリングシステム 2.看護実践の職業的・法的規制 3.看護職の養成制度と就業 4.看護職者のキャリア開発	講義 演習	6 (2)
看護における倫理と価値	1.倫理とは 2.看護における倫理の必要性 3.看護倫理とは 4.倫理原則と看護実践上の倫理概念 1) 看護師の倫理綱領、倫理原則 2) 患者の権利 5.看護師の倫理的責任と役割 1)倫理的意思決定のプロセス 2)看護現場における倫理的問題、倫理的ジレンマ 3)倫理問題へのアプローチ	講義	7
保健医療福祉活動における看護の役割	1.看護活動の実践場所の特徴と期待される役割 2.チーム活動と看護師の役割	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・提出物・プレゼンテーションを総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[1]看護学概論(メディカ出版)
看護覚え書(現代社)
看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)
看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)

■学習上の留意点

看護における共通技術

講師：加藤 僚子、小濱 美保
山下 千代美

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．看護技術の基本と展開方法を学ぶ
2．看護における安全・安楽の意義を理解し、必要な知識・技術が理解できる
3．看護における感染予防のための技術ができる
4．看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、人間関係を成立・発展させるための方法が理解できる
5．プロセスレコードとリフレクションを通して、自己のコミュニケーションの傾向と課題を知る
6．看護における観察・記録・報告の必要性が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護における安全・安楽	1.安全の意義と安全確保するための援助 2.安楽の意義と安楽確保するための援助	講義	2
感染予防の援助技術	1.感染予防の意義 2.感染症に関する法律 3.感染症を成立させる要素と成立過程 4.感染予防のための組織と援助技術に対する評価 5.感染予防のための援助方法 6.感染症を予防するプロセス 7.技術演習 1)スタンダードプリコーション 2)防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱 3)無菌操作 4)使用した器具の感染防止の取扱い 5)感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習	12 (4)
看護におけるコミュニケーション	1.看護学でコミュニケーションを学ぶ意義 2.看護場面での効果的なコミュニケーション 3. コミュニケーションの振り返り 1)プロセスレコード 2)リフレクション 3)ロールプレイ 4.看護と人間尊重 5. 看護における観察と報告 6.多職種連携とコミュニケーション	講義 演習	14 (2)
	筆記試験 実技試験		2

■成績評価の方法

筆記試験・レポート(100%)、実技試験(100%)
筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)
看護技術プラクティス(学研メディカル秀潤社)

■学習上の留意点

フィジカルアセスメントⅠ

講師：丹羽 恵理、小早志 太佳子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．ヘルスアセスメントの意義が理解できる
2．フィジカルアセスメントの知識・方法が理解できる
3．ケーススタディを通して、全身状態を把握するためのフィジカルアセスメントについて考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
ヘルスアセスメントとは	1.ヘルスアセスメントの意義と機能 1)フィジカルアセスメント 2)心理社会的状態のアセスメント 2.ヘルスアセスメントの視点	講義	1
フィジカルアセスメントとは	1.看護師の役割からみたフィジカルアセスメント 2.フィジカルアセスメントの必要物品・進め方 3. フィジカルアセスメントテクニック 1)環境の準備 2)基本原則 3)5つの基本技術	講義	2
フィジカルアセスメントの方法	1.形態機能別アセスメント方法と実際 1)息をする 2)恒常性維持 3)食べる、トイレに行く 4)動く 5)眠る、お風呂に入る 2. 症状アセスメント 1)胸が痛い 2)お腹が痛い 3)息苦しい 3. ケーススタディ 4.技術演習 1)フィジカルアセスメント 2)身体計測	講義 演習	26 (20)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

フィジカルアセスメントガイドブック(医学書院)
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)
写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス(インターメディカ)

■学習上の留意点

フィジカルアセスメントⅡ

講師：丹羽 恵理

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．生体におけるバイタルサインの基礎的知識を理解し、バイタルサイン測定ができる
2．対象の体温調節に関するニーズをアセスメントし、体温を調節する方法が理解できる
3．対象の呼吸に関するニーズをアセスメントし、呼吸を楽にする方法を理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
生命兆候を観察する技術	1.バイタルサインとは 2.体温・呼吸・脈拍・血圧・意識について 1)各調節機能のメカニズムと影響因子 2)測定部位と測定時のポイントと援助の実際 3.技術演習 1)バイタルサインの測定	講義 演習	6 (2)
呼吸を楽にする技術・体温を調節する技術	1.呼吸困難のある対象の安楽な呼吸のための技術 1)呼吸のニーズに関するフィジカルアセスメント (1)問診 (2)視診 (3)聴診 2)呼吸を楽にする方法 (1)酸素療法 (2)吸引 (3)吸入 (4)安楽な呼吸の体位 2.体温異常のある対象の体温を調節する技術 1)体温調節に関するフィジカルアセスメント (1)問診 (2)視診 (3)触診 3.技術演習 1)体温調節の援助(温罨法・冷罨法) 2)酸素吸入療法の実施 3)ネブライザーを用いた気道内加湿 4)口腔、鼻腔内吸引 5)気管内吸引	講義 演習	7 (6)
	筆記試験 実技試験		2

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容(100%)、実技試験(100%)
筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

フィジカルアセスメントガイドブック(医学書院)
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)
写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス(インターメディカ)

■学習上の留意点

聴診器　秒針付き時計

日常生活援助技術Ⅰ

講師：丹羽 恵理、川口 志帆

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活行動(動く・生活環境)の制限が対象に与える影響を理解することができる
2．対象に応じた援助を科学的根拠に基づいて実践できる
3．実践(演習)の結果を評価し、学習を主体的に深めていくことができる
4．看護師としての態度を習得できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
「動く」の援助	1.日常生活における活動・休息の必要性 2.活動制限が県生活に及ぼす影響 3.看護援助におけるボディメカニクスの活用 4.安楽な休息・睡眠のための援助 1)主な姿勢と安楽な体位 2)睡眠障害時の基本的な援助 5.活動制限がある対象への援助 6.技術演習 1)体位変換・保持 2)移乗介助 3)歩行・移動介助 4)車椅子での移送 5)ストレッチャー移送 6)安全な体位の調整	講義 演習	10 (5)
「生活環境を整える」援助	1.環境の意義 2.生活環境を整える援助技術 1)快適さを保つ構造 2)病室環境と病床環境 3)生活環境を調整する援助 3.技術演習 1)快適な療養環境の整備 2)臥床患者のリネン交換 3)安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)	講義 演習	18 (10)
	筆記試験 実技試験		2

■成績評価の方法

筆記試験・レポート(100%)、実技試験(100%)
筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)
看護技術プラクティス(学研メディカル秀潤社)

■学習上の留意点

筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上に満たない場合は、それぞれに再試験を行う
筆記試験、レポート評価の再試験は100%で評価

日常生活援助技術Ⅱ

講師：天野 果奈、川口 志帆

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活行動（食べる・トイレに行く）の制限が対象に与える影響を理解することができる
2．対象に応じた援助を化学的根拠に基づいて実践できる
3．実践（演習）の結果を評価し、学習を主体的に深めていくことができる
4．看護師としての態度を習得できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数（内演習）
「食べる」の援助	1.食べる援助の目的 2.食行動に影響を及ぼす因子 3.栄養状態のアセスメント 4.食べるための援助技術 5.技術演習 1)食事介助（嚥下障害除く） 2)患者の誤認防止策の実施	講義 演習	6 (4)
「トイレに行く」の援助	1.トイレに行く援助の目的 2.排泄のニーズのアセスメント 3.排泄障害の種類 1)排泄行動を阻害する要因 2)自然排泄を阻害する要因 4.排泄するための援助方法 1)自然排尿を促す援助 2)膀胱内留置カテーテル・一時的導尿 3)浣腸・高圧浣腸 5.技術演習 1)陰部の保清 2)膀胱留置カテーテルの管理 3)導尿または、膀胱留置カテーテルの挿入 4)浣腸 5)排泄援助（床上、ポータブルトイレ、おむつ等）	講義 演習	22 (20)
	実技試験 筆記試験		2

■成績評価の方法

筆記試験・レポート（100%）、実技試験（100%）
筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版）
看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上に満たない場合は、それぞれに再試験を行う
筆記試験、レポート評価の再試験は100%で評価

日常生活援助技術Ⅲ

講師：萱野 明子、天野 果奈

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．日常生活行動（清潔・身だしなみ）の制限が対象に与える影響を理解することができる
2．日常生活行動への援助を科学的根拠に基づいて考えることができる
3．実践（演習）の結果を評価し、学習を主体的に深めることができる
4．看護師としての態度を習得できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
「清潔・身だしなみ」の援助	1.清潔・身だしなみの援助の目的 2.皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア 1)入浴と生体の反応 2)マッサージと生体の反応 3)清拭洗浄剤と皮膚の反応 3.清潔・身だしなみのニーズのアセスメント 1)清潔・身だしなみのニーズ 2)清潔・身だしなみのニーズを阻害する因子 4.清潔・身だしなみのための援助技術 1)援助方法の選択 入浴・シャワー浴・洗髪・全身清拭・手浴・足浴 爪切り・髭剃り・寝衣交換 5.技術演習 1)整容 2)全身清拭 3)洗髪 4)点滴ドレーンを留置していない患者の寝衣交換 5)手浴・足浴	講義 演習	28 (20)
	筆記試験 実技試験		2

■成績評価の方法

筆記試験100%、実技試験100%

筆記試験、実技試験のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版）

看護技術プラクティス（学研メディカル秀潤社）

■学習上の留意点

筆記試験、技術試験のそれぞれの評価が60%に満たない場合は、それぞれに再試験を行う

診療補助技術

講師：天野 果奈

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．検査における看護者の役割と責任が理解できる
2．薬物療法における看護師の役割・法的責任が理解できる
3．安全・安楽な与薬に伴う援助技術を身につける

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
検査・処置に伴う援助技術	1.検査の意義 2.検査における看護者の役割 1)検査の説明 2)苦痛の軽減 3)危険の察知と対処 3.検体採取と取扱い	講義	2
与薬に伴う援助技術	1.薬物療法の意義と基礎知識 2.薬物療法における援助過程と与薬の技術 1)経口薬(バッカル錠、内服薬、舌下錠)の与薬 2)経皮・外用薬の与薬 3)座薬の与薬 4)注射の用法と医療廃棄物 (1)皮下注射 (2)皮内注射 (3)筋肉内注射 (4)静脈内注射(点滴静脈内注射を含む) 3.技術演習 1)筋肉内注射 2)皮下注射 3)静脈路確保・点滴静脈内注射 4)静脈血採血 5)患者の誤認防止策の実施	講義 演習	12 (9)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験80%、レポート・課題評価20%

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)
看護技術プラクティス(学研メディカル秀潤社)

■学習上の留意点

看護の思考

講師：山下 千代美、加藤 僚子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．科学的思考、問題解決思考をもとに看護の思考を理解する
2．看護の思考に有効な概念・理論を理解する
3．健康レベル別看護に活用できる概念・理論を理解する

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護の思考	1. 看護過程とは 2. 看護過程の基盤となる考え方 1) アセスメント 2) 全体像を考える 3) 課題の抽出 4) 看護目標 5) 看護計画 6) 経過記録	講義	19
看護に有効な概念・理論	1. 看護に有用な概念・理論 1) 健康信念モデル 2) 危機モデル 3) セルフケア理論 4) 障害の受容過程 5) 病みの軌跡理論 6) 自己効力理論 7) 適応モデル 8) ストレス理論	講義 演習	5 (4)
健康レベルと看護	1.健康レベルのとらえ方 1) 健康の維持・増進 2) 健康生活の急激な破綻 3) 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 4) 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整 5) 人生最期のとき 2. 健康レベル別看護に活用できる概念・理論	講義 演習	5 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

看護過程・グループワークの参加状況・筆記試験を総合評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)
系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論(医学書院)
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(ヌーヴェルヒロカワ)

■学習上の留意点

基礎臨床看護論

講師：渥美 美保、天野 果奈

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．既習の知識を想起し、模擬患者に応じた日常生活援助技術が実践できる
2．自己を振り返り、今後の課題が明確にできる
3．看護師としての態度を習得できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
情報整理とセルフケアニード	1.健康障害により、日常生活行動が自己にて行えない事例患者のセルフケアニードを考える 1) 事例患者の状況把握 2) 事例患者のセルフケアニードの抽出	講義 GW	4
技術の統合	2.健康障害により、日常生活行動が自己にて行えない事例患者の日常生活援助 1) 日常生活援助技術 2) 客観的・主観的情報 ＜看護技術＞ 1.フィジカルアセスメント 2.環境調整技術 3.食事の援助技術 4.排泄援助技術 5.活動・休息援助技術 6.清拭・衣生活援助技術(入浴・シャワー浴の介助を含む)	演習	22 (22)
評価とリフレクション	3.健康障害により、日常生活行動が自己にて行えない事例患者の日常生活援助を提供して自己を振り返る 1) 事例患者の反応と援助の評価 2) リフレクション	演習	4 (4)

■成績評価の方法

ルーブリック評価表を用いて技術と思考を総合的に評価

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

指導技術

講師：渥美 美保、丹羽 恵理

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．看護における教育的役割を学ぶ
2．指導の対象と領域、指導プロセスを学ぶ
3．効果的な指導方法を理解する
4．指導技術を体験発表することで、患者教育・健康教育の要点を理解する

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護の教育機能と要点	1.健康教育における看護の役割 2.指導における学習理論 3.指導の対象者と指導の場 4.効果的な指導の留意点	講義	2
指導のプロセス	1.対象の理解 2.指導プロセス 1)情報収集 2)アセスメント 3)学習のニーズの特定 4)指導計画の立案 5)実施 6)評価 3.指導プロセスに影響を及ぼす要因 1)発達段階 2)学習の動機付け 3)自己効力 4)対象者の健康状態・健康観	講義	2
指導内容と方法	1.指導内容と優先度の把握 1)知識の提供 2)技術の提供 3)励ましと支持 2.指導方法 1)指導スタイル 2)指導教材の活用 3)個人・集団へのアプローチと留意点 4)基本的な指導技法 3.指導教材の種類 4.指導の評価方法	講義	4
指導技術の実際	1食事指導 1)模擬患者の指導計画の立案(食事指導) 2)模擬患者の指導場面の実施 3)指導の評価	講義 演習	22 (20)

■成績評価の方法

評価表に基づき、提出物・演習参加状況・直接的指導場面・他者評価・自己評価から総合的に評価する

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)

■学習上の留意点

ノートを使用する
(赤色インデックスは個人指導、青色インデックスは集団指導と区別する)
個人指導・集団指導とも、指導計画を自己で立案する

看護研究

講師：石﨑 敦子、山下 千代美

単位数：2単位　　時間数：45時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．看護研究の目的と意義が理解できる
2．より良い看護を実践していくための看護研究の方法がわかり、探求心が持てる
3．事例研究を通して研究的態度を身につけることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護における実践と研究	1.看護研究とは 2.看護研究の進め方 3.研究テーマの決め方 4.文献検討 1)文献検討と活用方法 5.論文のクリティーク 1)論文クリティークの必要性 2)論文クリティークの実際	講義 演習	10 (4)
看護研究のデザインと 研究方法	1.研究デザインと種類 1)量的研究 2)質的研究 3)事例研究 2.看護研究の倫理的配慮	講義	6
事例研究の実際1	1.事例研究の進め方 2.研究計画書の作成 3.事例研究論文の作成 1)序論(はじめに) 2)本論 (1)事例紹介 (2)看護の実際と結果 (3)考察 3)結論	講義 演習	18 (12)
事例研究の実際2	1.論文の発表 2.発表後のまとめ	演習	11 (11)

■成績評価の方法

論文・課題・グループワーク・発表内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院)
看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)

■学習上の留意点

事例研究は、主体的に取り組み指導・助言を受ける。
論文発表後、助言をもとにまとめ、修正をおこなう

地域と暮らし

講師：加藤 僚子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．人がつながって生きることの大切さに気づき、ライフイベントともに人々の暮らしが理解できる
2．人々が生活する環境を理解し、環境によって暮らしの困難さや健康に影響することが理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
健康を育みながら暮らす	1.支えあって生きる 1)共生(支え合い)とは 2)家族 3)仲間 4)地域住民 5)学校や職場 2.「暮らす」とは 1)子どもを産み育てる 2)学ぶ 3)働く 4)病を治す 5)老いとともに生きる 6)最期を迎える	講義	6
地域の生活環境が健康に与える影響	1.社会的環境 1)人口構造 2)産業 3)社会資源 4)行政施策 2.文化的環境 1)地域の文化 2)地域の慣習 3)地域の風習 3.自然環境 1)災害	講義	4
暮らしの困難さと健康	1.地域で暮らす人々の暮らしの実際	演習	4 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[1]地域療養を支えるケア(メディカ出版)

■学習上の留意点

家族を支える看護

講師：佐橋 寿実、小早志 太佳子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．家族看護の概念を理解する
2．看護の対象は患者本人を含めた家族全体であることが理解できる
3．家族のセルフケア機能を高めるための看護が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
家族看護とは	1. 家族看護の特徴 2. 家族看護の実践場面 3. 看護学から見た家族の捉え方 4. 家族看護の目指すところ 1)家族の力を最大限に引き出す 2)家族全体の健康を目指す 3)未来の危機に備える力をつける	講義	4
家族看護学における家族の理解	1. 家族のセルフケア機能 1)家族の発達課題を達成する能力 2)家族が健康的なライフスタイルを維持する能力 3)健康問題への家族の適応能力 2. 家族役割機能の変化 1)必要とされる家族機能 2)看護介入が必要とされる家族 3. 家族のヘルスプロモーション	講義	10
家族看護過程	1. 家族を理解するための理論 1)家族発達理論 2)家族システム理論 3)家族ストレス対処理論 2. 家族の変化の把握 1)家族成員の危機	講義	6
家族看護の実践	1. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 2. 家族を援助するときの基本姿勢 3. 家族を支える看護	講義 演習	9 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

家族看護学 理論と実践(日本看護協会出版会)

■学習上の留意点

暮らしを支える看護Ⅰ

講師：江口 智美、石﨑 敦子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念が理解できる
2．地域で暮らし続けるためのしくみ(「共助」「公助」)が理解できる
3．看護が提供される多様な場と看護の役割が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
地域・在宅看護の対象	1.地域で暮らすすべての人々 1)健康状態 2)発達段階 3)家族 2.個人と家族 3.コミュニティ	講義	2
暮らしを支えるしくみ	1.地域包括ケアシステム 1)住み慣れた地域での生活の継続 2)多職種連携・協働 2.地域共生社会のしくみ 1)我が事、丸ごと 2)自助、互助、共助、公助 3.社会保障制度 1)医療保険、介護保険制度と施策 2)権利保障に関する法と施策 3)障害者等に関する法と施策 4.公衆衛生 1)各保健に関する法と施策	講義	4
健康と暮らしを支える看護	1.保健活動 1)母子保健 2)成人保健 3)難病保健 4)精神保健 5)障害児者保健 6)感染症保健 7)学校保健 8)産業保健 2.看護が提供される多様な場 1)病院(外来・入院)・診療所 2)訪問看護事業所 3)保健所・保健センター 4)地域包括支援センター 5)看護小規模多機能型居宅介護 6)通所サービス 7)介護施設・老人保健施設 8)障害児・者施設 9)病児保育施設 3.地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント 1)自己決定支援(ACP含む) 2)ケアマネジメント 3)インフォーマルネットワーク	講義	8
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[1]地域療養を支えるケア(メディカ出版)

■学習上の留意点

暮らしを支える看護Ⅱ

講師：小早志 太佳子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．地域で暮らす人々の健康に関するニーズ(暮らしの中の困りごと)が理解できる
2．「自助」「互助」を支える看護を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
地域で暮らす人々の健康に関するニーズ(暮らしの中の困りごと)	1.暮らしの中の健康ニーズとは 1)暮らしの制約、障害、困難感による健康への影響 2)暮らしの中の「自助」「互助」 2.子どもを産み育てる人の健康ニーズ 3.学ぶ人の健康ニーズ 4.働く人の健康ニーズ 5.病を治す人の健康ニーズ 6.老いとともに生きる人の健康ニーズ 7.最期を迎える人の健康ニーズ	講義	8
「自助」「互助」を支える活動	1.地域活動 1)地域(まち)づくり(行政、自治組織、NPO団体など) 2)コミュニティ活動 2.地域の「自助」活動 1)健康教育 2)相談事業 3.地域の「互助」活動 1)子どもを産み育てる人を支える活動 2)学ぶ人を支える活動 3)働く人を支える活動 4)病気を治す人を支える活動 5)老いとともに生きる人を支える活動 6)最期を迎える人を支える活動	講義	9
「自助」「互助」を支える看護	1.「自助」「互助」を支える看護とは 1)地域活動につなげる 2)新たな支援の提案 2.地域で暮らす人々の健康に関するニーズに対する看護を考える 1)暮らしの中の困りごと(フィールドワーク) (1)子育て支援教室 (2)小中学校(保健室) (3)病児保育施設 (4)老人クラブ 2)「自助」「互助」を支える看護を考える	講義 演習	12 (10)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[1]地域療養を支えるケア(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[2]在宅療養を支える技術(メディカ出版)

■学習上の留意点

地域で療養する人を支える看護Ⅰ

講師：小早志 太佳子、矢野 由美子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．在宅看護の概要が理解できる
2．在宅ケアにおける看護の役割を学び、訪問看護の特徴が理解できる
3．在宅における医療処置管理の方法や日常生活援助を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
在宅看護とは	1.在宅看護の基盤となる概念 1)エンパワメント 2)ストレングス 3)パートナーシップ 2.在宅ケアと看護の役割 1)関係機関・関係職種 2)他職種の役割と機能 3)多職種連携・協働 (1)医療機関との連携(入退院支援) (2)施設との連携 (3)居宅サービス提供者との連携(サービス担当者) 4)社会資源の活用 (1)ケアマネジメント	講義	6
訪問看護の特徴	1.訪問看護のしくみ 1)介護保険 2)医療保険 3)訪問看護サービスの流れ 2.訪問看護の実際 1)訪問看護ステーション 2)継続看護 3)自己決定支援 4)家族支援 (1)レスパイトケア (2)グリーフケア 5)リスクマネジメント	講義	6
在宅における援助技術	1.在宅酸素療法 2.在宅人工呼吸療法 3.在宅経管栄養法 4.輸液管理 5.膀胱留置カテーテル管理 6.ストーマ管理 7.褥瘡予防・褥瘡処置 8.疼痛コントロール ＜技術演習＞ 1.日常生活援助 1)移動 2)排泄(摘便を含む) 3)清潔	講義 演習	17 (8)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[1]地域療養を支えるケア(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[2]在宅療養を支える技術(メディカ出版)

■学習上の留意点

地域で療養する人を支える看護Ⅱ

講師：小早志 太佳子、石﨑 敦子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．地域で療養する人とその家族の特徴を理解しその人に合わせた看護を考えることができる
2．在宅における様々な状況にある対象の特徴を学び、QOLを維持・向上する支援を考えることができる
3．在宅で療養する人の看護を探求する

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
地域で療養する終末期高齢者と家族の看護	1. 身体状況のアセスメント 1)症状・疼痛 2)身体機能の生理的変化 2. 生活状況のアセスメント 1)生活の変化 3. 精神面のアセスメント 1)死の受容過程 2)自己決定内容 4. 家族のアセスメント 1)死の受容段階 2)グリーフケア 5. エンド・オブ・ライフケア 6. 臨死期の対応	講義 演習	8 (4)
地域で療養する成人期の脊髄損傷のある人と家族の看護	1. 身体状況のアセスメント 1)障害範囲と程度 2. 生活状況のアセスメント 1)障害による生活への影響と自己管理 2)福祉用具の利用状況 3. 精神・社会面のアセスメント 1)障害受容 2)役割の変化 3)障害者福祉サービスの利用状況 4. 家族のアセスメント 1)介護内容と介護負担 5. 生活の再構築の援助 1)自立(自律)支援 2)社会資源の活用 6. 医療処置援助 1)排泄管理 (1)排便コントロール (2)膀胱留置カテーテル管理 2)褥瘡予防	講義 演習	8 (4)
医療機器を使用して地域で療養している小児と家族の看護	1. 身体状況のアセスメント 1)成長・発達 2. 精神・社会面のアセスメント 1)家庭環境 2)家族機能 3. 家族のアセスメント 1)障害受容 4. 発達支援(療育の視点) 1)多職種連携・協働 5.家族ケア 1)レスパイトケア 2)兄弟への支援 6.医療機器管理 7.社会資源の活用 1)マネジメント	講義 演習	8 (4)

地域で療養している精神障害(認知症)のある独居高齢者の看護	1. 身体・生活状況のアセスメント 1)ADL自立度 2. 精神・社会面のアセスメント 1)認知機能 2)成年後見 3. 自立支援 1)多職種連携・協働 2)地域支援ネットワーク 3)インフォーマルサービス	講義 演習	6 (4)

■成績評価の方法

事例展開・グループワークを総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[1]地域療養を支えるケア(メディカ出版)

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論[2]在宅療養を支える技術(メディカ出版)

■学習上の留意点

成人・老年看護学概論

講師：丹羽 恵理、加藤 僚子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．成人期の発達段階・発達課題を理解し、成人としての自己の役割を考える
2．老年期の発達段階・発達課題を理解し、その人らしい生き方について考えることができる
3．少子超高齢社会の現状と特徴から、成人期・老年期にある対象が抱える問題を明らかにできる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
成人期・老年期の特徴	1.生涯発達の特徴 2.成人期の発達段階・発達課題 1)青年期の特徴(身体・心理・社会) 2)壮年期の特徴(身体・心理・社会) 3)中年期・向老期の特徴(身体・心理・社会) 3.老年期の発達段階・発達課題 1)老年期の区分 2)老年期の特徴(身体・心理・社会) 4.成人期の役割 1)家族における役割 2)社会生活における役割 3)成人期に病を抱えるとは 5.老年期の役割 1)老年期の役割と喪失体験 2)生きがいと社会参加 3)老年期に病を抱えるとは	講義 演習	14 (8)
成人期・老年期の生活と健康	1.成人・老年の動向 2.成人・老年を取り巻く環境 3.成人の生活習慣と健康 4.老化と老年症候群 1)老化による日常生活への影響 2)健康寿命と平均寿命 5.成人・老年の抱える問題 1)死因 2)自殺、ストレス 3)多死社会、孤独死	講義 演習	15 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・GW・発表内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会)
系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

成人・老年看護学援助論Ⅰ

講師：山下 千代美、奥山 美佐恵
金井 香子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．運動器系の障害を持つ患者の特徴と看護が理解できる
2．脳神経系の障害を持つ患者の特徴と看護が理解できる
3．運動器の障害を持つ患者の移動・移乗の援助が習得できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
成人・老年看護学援助論について	1.成人・老年看護学援助論の学習の進め方	講義	1
運動器に障害を持つ人の看護	1.事例の提示 2.運動器系に障害を持つ人の特徴 1)老化と運動器系の障害 (1)骨粗鬆症と高齢者に多い骨折 3.運動器系の症状のある人の看護 1)疼痛 2)循環障害とフォルクマン拘縮 3)深部静脈血栓症 4)神経障害 5)褥瘡 (1)褥瘡予防のための援助 4.運動器に障害を持つ人の看護 1)大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術を受ける人の看護 2)関節リウマチを抱える人の看護 3)保存療法を受ける人の看護 ＜技術演習＞ 1)褥瘡予防ケア(創保護、創処置ふくむ)	講義 演習	16 (2)
脳神経系に障害を持つ人の看護	1.脳神経系に障害を持つ人の特徴 1)生活習慣と脳神経系の障害 2)老化と脳神経系の障害 2.脳神経系の症状のある人の看護 1)意識障害 2)言語障害 3)運動麻痺 4)嚥下障害 3.脳神経系に障害を持つ人の看護 1)脳出血 2)脳梗塞 3)脳腫瘍 4)パーキンソン病	講義	12
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[10]運動器(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

成人・老年看護学援助論Ⅱ

講師：蓑原 佳世、川口 志帆

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．呼吸器の障害を持つ人の特徴と看護が理解できる
2．消化器系に障害を持つ人の特徴と看護が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
呼吸器系に障害を持つ人の看護	1.呼吸器系に障害を持つ人の特徴 1)老化と呼吸器系の障害 2.呼吸器系の症状のある人の看護 1)咳嗽・喀痰 2)血痰・喀血 3)胸痛 4)呼吸困難 3.呼吸器系に障害を持つ人の看護 1)肺炎の看護 2)気管支喘息の看護 3)肺がんの看護 4)COPDの看護	講義	10
消化器系に障害を持つ人の看護	1.消化器系に障害をもつ人の看護 1)老化と消化器系の障害 2.消化器系の症状のある人の看護 1)吐きけ・嘔吐 2)腹痛 3)吐血・下血 4)下痢・便秘 3.消化器系に障害を持つ人の看護 1)胃がんの看護 2)潰瘍性大腸炎の看護 3)肝炎・肝硬変の看護	講義	10
検査・治療時の看護	1.呼吸困難のある人の看護 1)酸素吸入療法 2)口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引 3)体位ドレナージ 4)ネブライザー 2.内視鏡検査を受ける人の看護 3.化学療法を受ける人の看護 4.放射線療法を受ける人の看護 ＜技術演習＞ 1)体位ドレナージ	講義 演習	9 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[2]吸器(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[5]消化器(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

なし

成人・老年看護学援助論Ⅲ

講師：澤田 真弓、山田 さおり

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．循環器系に障害のある人の特徴と看護が理解できる
2．腎・泌尿器系の障害を持つ人の特徴と看護が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
循環器系に障害のある人の看護	1.事例の提示 2.循環器系に障害をもつ人の特徴 1)老化と循環器系の障害 3.循環器系の症状のある人の看護 1)胸痛 2)動悸 3)浮腫 4)チアノーゼ 5)ショック 4.循環器系に障害を持つ人の看護 1)心筋梗塞の看護 2)心不全の看護 3)弁膜症の看護 4)大動脈解離の看護 5)不整脈の看護 6)熱中症・脱水の看護 5.検査・治療時の看護 1)心電図 2)心臓カテーテル検査	講義	15
腎・泌尿器系に障害のある人の看護	1.腎・泌尿器系に障害をもつ人の特徴 1)老化と腎・泌尿器系の障害 2.腎・泌尿器系の症状がある人の看護 3.腎・泌尿器系に障害を持つ人の看護 1)腎不全の看護 (1)血液透析・腹膜透析 2)前立腺肥大症の看護	講義	14
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[3]循環器(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

なし

成人・老年看護学援助論Ⅳ

講師：加藤 僚子、斉木 真美

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．内分泌系に障害のある人の特徴と看護が理解できる
2．認知機能に障害のある人の特徴と看護が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
内分泌系に障害のある人の看護	1.事例の提示 2. 内分泌系に障害がある人の特徴 1)老化と内分泌系の障害 (1)糖尿病 3. 内分泌系に障害がある人の看護 1)食事療法と看護 2)薬物療法と看護 3)感染予防と看護 (1)フットケア 4)運動療法と看護 5)心理面への援助 4.技術演習 1)簡易血糖測定 2)インスリン注射	講義 演習	14 (4)
認知機能に障害のある人の看護	1. 認知機能に障害のある人の特徴 1)老化と認知症 2)認知症と倫理 2.認知機能に障害を持つ人の看護 1)認知症の看護 2)認知症と意思決定支援 3)認知症の人を支える社会制度	講義 演習	6 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)
系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

成人・老年臨床看護論Ⅰ

講師：山下 千代美、川口 志帆

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．手術療法を受ける患者の特徴と看護が理解できる
2．手術前・中・後の看護が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
手術療法を受ける患者の理解	1.手術療法を受ける患者とは 2.全身麻酔を受ける患者の看護 3.脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔を受ける患者の看護 4.内視鏡下手術を受ける患者の看護	講義	1
手術前の患者の看護	1.手術前看護 1)手術前オリエンテーション <技術演習> ・器具を用いた呼吸訓練 ・臥床状態の含嗽訓練 ・間欠的空気圧迫装置・弾性ストッキングの着脱 2)主体的な参画を促す援助 3)心理面を整える 4)全身状態を整える 5)術前の情報収集と分析	講義 演習	4 (3)
手術中の患者の看護	1.手術中看護 1)手術室における看護師の役割 (1)器械出し(直接介助)看護師の役割 (2)外まわり(間接介助)看護師の役割	講義	1
手術を受ける患者の看護	1.手術後看護 1)呼吸、循環、栄養の適切な管理 2)異常の早期発見、二次的障害・合併症予防 3)術後の疼痛管理、苦痛緩和への援助 4)回復過程・自立度・安静度に合わせた援助 5)不安の軽減、精神的安定を図るための支援	講義 演習	7 (7)
手術を受ける高齢者の看護	1.手術が高齢者に与える影響 2.高齢者に起こりやすい術後合併症と看護	講義	2

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)
よくわかる周手術期看護(学研)

■学習上の留意点

成人・老年臨床看護論Ⅱ

講師：山下 千代美、天野 果奈

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．治療・処置を受ける患者の看護が理解できる
2．事例患者に応じた周術期の看護が理解できる
3．事例患者の症状・状態をアセスメントし、周術期の援助方法を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
治療・処置を受ける患者の看護①	1.輸液療法を受ける患者の看護 2.輸血療法を受ける患者の看護 〈技術演習〉 ・点滴静脈内注射の管理 ・輸血の管理	講義 GW 演習	6 (4)
治療・処置を受ける患者の看護②	1.創のある患者の看護 〈技術演習〉 ・創処置(創洗浄、創保護) ・ドレーン類の挿入部の処置・管理 ・ストーマ管理 ・点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 ・術後の離床、安楽の促進・苦痛緩和のためのケア ・医療機器(心電図モニター、酸素高流量システム)の操作・管理	講義 演習	6 (6)
手術療法を受けた患者の看護	1.手術当日の看護 1)手術室への入室準備 2)手術室への入退室と引き継ぎ 3)帰室の準備・環境を整える 4)帰室直後の看護	講義 演習	4 (2)
成人・老年期の手術療法を受けた患者の看護の実際	1.成人期・老年期の手術療法を受けた事例患者の看護 1)各発達段階・術後合併症をふまえたアセスメント 2)異常の早期発見、二次的障害・合併症予防のための援助 3)術後の疼痛緩和と回復促進に向けた援助	講義 GW 演習	14 (10)

■成績評価の方法

演習内容・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)
よくわかる周手術期看護(学研)
看護技術プラクティス(学研メディカル秀潤社)

■学習上の留意点

疾病理解と看護学的視点Ⅰ

講師：山下 千代美

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．健康障害が対象の生活にどのように影響を及ぼすかアセスメントすることができる
2．事例の情報を整理し科学的根拠に基づき分析・解釈・統合し、健康上の課題を抽出することができる
3．障害を持ちながら生活する人とその家族を支援する看護を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
障害を持ちながら生活する人とその家族を支援する看護	1.大腿骨頸部骨折をした70代高齢者の看護 1)情報の整理(病態・薬理作用) 2)アセスメント(データベース) 3)全体像(関連図) 4)課題の抽出 5)看護目標 6)看護計画	講義 演習	15 (10)

■成績評価の方法
課題を総合的に評価

■テキスト参考書など
系統看護学講座 成人看護学[10]運動器(医学書院)

■学習上の留意点

疾病理解と看護学的視点Ⅱ

講師：渥美 美保、加藤 僚子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．健康障害が対象の生活にどのように影響を及ぼすかアセスメントすることができる
2．事例の情報を整理し科学的根拠に基づき分析・解釈・統合し、健康上の課題を抽出することができる
3．健康生活の急激な破綻をきたした人の回復に向けた看護を考えることができる
4．健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要としている人の、セルフマネジメント支援を考えることができる
5．発達段階に応じた看護を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
健康生活の急激な破綻をきたした人の看護	1.心筋梗塞の80代高齢者の事例 1)情報の整理(病態・薬理作用) 2)アセスメント(データベース) 3)全体像(関連図) 4)課題の抽出 5)看護目標 6)看護計画	講義 GW	15
健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要としている人の看護	1.糖尿病の50代成人の事例 1)情報の整理(病態・薬理作用) 2)アセスメント(データベース) 3)全体像(関連図) 4)課題の抽出 5)看護目標 6)看護計画	講義 GW	15

■成績評価の方法

課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 成人看護学[3]循環器(医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝(医学書院)
系統看護学講座 老年看護学(医学書院)

■学習上の留意点

高齢者のヘルスアセスメント

講師：加藤 僚子、奥山 美佐恵

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．加齢による生理的変化を踏まえ、高齢者の日常生活における特徴が理解できる
2．生活機能の視点から高齢者の健康課題をアセスメントし、看護の方法が理解できる
3．加齢に伴う機能低下や健康障害を踏まえて、高齢者の安全・安楽・自立を考慮した生活援助を学ぶ
4．個々のライフスタイルを持つ高齢者が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
高齢者の生活機能を高める看護	1.高齢者の健康的な生活 1)国際生活機能分類～生きることの全体像～ 2)高齢者の「自立/自律」とは 3)健康寿命と介護予防	講義	2
高齢者の生活機能を高める看護「うごく」	1.高齢者にとって「うごく」とは 1)「うごく」に関するヘルスアセスメント (1)高齢者の生活不活発病 (2)安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防) 2)自立/自律を促す「うごく」の生活援助	講義 演習	6 (4)
高齢者の生活機能を高める看護「やすむ・ねむる」	1.高齢者にとって「やすむ・ねむる」とは 1)「やすむ・ねむる」に関するヘルスアセスメント (1)高齢者の生活リズム (2)高齢者の睡眠状態 2)自立/自律を促す「やすむ・ねむる」の生活援助	講義	2
高齢者の生活機能を高める看護「たべる」	1.高齢者にとって「たべる」とは 1)「たべる」に関するヘルスアセスメント (1)高齢者の栄養状態(低栄養と脱水) (2)高齢者の嚥下状態 2)自立/自律を促す「たべる」の生活援助	講義	4
高齢者の生活機能を高める看護「トイレに行く」	1.高齢者にとって「トイレに行く」とは 1)「トイレに行く」に関するヘルスアセスメント (1)排尿状態 (2)排便状態 2)自立/自律を促す「たべる」の生活援助	講義	4
高齢者の生活機能を高める看護「お風呂に入る」	1.高齢者にとって「お風呂にはいる」とは 1)「お風呂に入る」に関するヘルスアセスメント (1)高齢者の皮膚の状態 (2)高齢者の入浴時の循環動態の変化 2)自立/自律を促す「お風呂に入る」の生活援助	講義	4
高齢者の生活機能を高める看護「はなす」	1.高齢者にとって「はなす」とは 1)「はなす」に関するヘルスアセスメント (1)高齢者の言語機能 (2)高齢者の聴覚機能 (3)高齢者の視覚機能 (4)高齢者の認知機能 2)自立/自律を促す「はなす」の生活援助	講義	2
高齢者の生活機能を高める日常生活援助技術	＜技術演習＞ 1.経鼻胃チューブの挿入 2.経管栄養法による流動食の注入 3.口腔ケアと義歯の取扱い	演習	3 (3)
まとめ	1.事例学習	演習	2 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)

系統看護学講座 老年看護学(医学書院)

系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

■学習上の留意点

事例は、講義の最初に配布する。授業を受けながら、自己で事例課題に取り組む。まとめの授業で解説し、終了時課題を提出すること

小児看護学概論

講師：石﨑 敦子、渥美 美保

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．小児看護の対象の特性を学び、「小児観」「家族観」を深める
2．子どもと家族のおかれた現状、子どもを取り巻く社会が与える影響に関心を持ち続ける
3．子どもの成長発達を理解し、日常生活習慣獲得への支援方法を学ぶ
4．子供の権利を守り、自己決定を支える看護を探究できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
子どもとは	1子どもとは 1)子どもの特徴 2)小児期の区分 2.子どもと家族 1)子どもにとって家族とは 2)家族の機能 3)現代家族の特徴	講義	2
子どもを取り巻く社会	1.社会の変化(統計) 2.社会の変化が子どもに及ぼす影響 3.社会的問題 (いじめ、不登校、虐待、家庭内暴力、貧困等) 4.社会の法・政策 (母子保健・学校保健・予防接種・虐待防止) 5.子どもを取り巻く社会と環境問題を考える	講義 演習	12 (4)
小児看護とは	1.小児看護の対象 2.小児看護の目標 3.小児看護の特徴 4.小児看護の場と役割	講義	2
小児看護と倫理	1.子ども観の変遷 2.子どもの権利と看護 3.子どもの最善の利益 4.小児看護の場と役割	講義 演習	3 (2)
小児の成長と発達	1.成長・発達とは 2.成長発達の進み方、影響する因子 3.成長・発達の評価 4.各期における成長発達の特徴 5.日常生活習慣獲得への援助 1)食事 2)排泄 3)睡眠(休息) 4)清潔(衣服の着脱) 5)活動(遊び・学習・生活リズム) 6.子どもにとっての栄養の意義	講義	10
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
写真でわかる小児看護技術アドバンス(インターメディカ)
国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める

小児看護学援助論Ⅰ

講師：石﨑 敦子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．健康障害が小児の成長・発達に与える影響を学ぶ
2．健康障害が小児の家族に与える影響を学ぶ
3．健康障害をもつ小児と家族の看護を学び、小児の生活や治療過程を支える看護を考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
健康障害が小児と家族に与える影響	1.健康障害に対する子どもの反応 1)疾病・障害に対する子どもの受け止め、理解 2)子どもの疾病・障害に対する家族の受け止め、理解 3)子どもや家族の療養上のストレス、負担 2.子どもの健康障害と看護 1)子どもの治療、健康管理にかかわる看護 2)子どもの日常生活にかかわる看護 3)子どもの成長発達に合わせた説明 (1)プレパレーションとは (2)プレパレーションの方法(計画)	講義 演習	8 (4)
健康障害をもつ小児と家族の看護	1.外来における子どもと家族の看護 2.入院中の子どもと家族の看護 1)入院が子どもに及ぼす影響 2)入院が家族に及ぼす影響 3)子どもの生活を支える入院環境 (1)安全 (2)成長発達を促す (3)成長発達段階に合わせた入院環境を考える 4)入院生活の適応と治療過程を支える看護 (1)日常生活への支援 (2)不安・苦痛への支援 (3)遊びや学習の支援 (4)治療や処置、検査に伴う苦痛への支援を考える (5)家族への支援 3.障害のある子どもと家族の看護 4.子どもと家族のエンドオブライフケア	講義	6
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)
写真でわかる小児看護技術アドバンス(インターメディカ)

■学習上の留意点

小児看護学援助論Ⅱ

講師：上田 みずほ、安藤 都子
澤田 三世

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．健康障害をもつ小児の主な症状と看護が理解できる
2．健康障害の経過の特徴と小児・家族の看護が理解できる
3．健康障害をもち、特殊な状況にある小児の看護を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
小児にみられる主な症状と看護	1.小児にみられる主な症状と看護 1)小児のアセスメントの視点 (1)小児のフィジカルアセスメントとバイタルサイン 2.急性期にある小児と家族の看護 1)発熱・けいれん 2)嘔吐・下痢・脱水 3.小児の輸液管理の基礎知識 4.手術・検査・処置を受ける小児と家族の看護 1)手術・検査・処置を受ける小児とその家族の理解 2)手術・検査・処置を受ける小児とその家族の看護 (1)インフォームドコンセント・インフォームドアセント (2)発達段階に合わせたプリパレーション 5.小児の入院が家族に及ぼす影響	講義 演習	15 (6)
小児の健康障害の特徴と看護の展開	1.健康障害のある小児と家族の看護の実際を考える 「川崎病を発症した患児」	講義	8
特殊な状況にある小児と家族の看護	1.新生児集中治療室における小児と家族の看護 1)成長・発達を促す援助 2)家族への看護 2.被虐待が疑われる小児と家族の看護 1)小児の虐待に特徴的にみられる状況 2)小児と家族へのアプローチの仕方 3.救急処置を要する小児と家族の看護 1)子どもの発達と事故 2)救急処置を要する小児 3)救急処置が必要な小児と家族への看護 4.小児のBLS	講義 演習	6 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験・課題・演習内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)

■学習上の留意点

小児看護学援助論Ⅲ

講師：石﨑 敦子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．健康障害をもつ小児・家族の看護が理解し、生じやすい課題と看護を捉える視点を身に付ける
2．小児の看護に必要な看護技術を安全に実践できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
健康障害をもつ小児の看護	1.健康障害をもつ子どもと家族の看護を事例を用いて考える 1)情報の整理とアセスメント 病態、成長発達と日常生活、家族 2)看護の方向性と援助計画	講義 演習	5 (3)
小児に必要な看護技術の実際	1.小児看護に必要な基本的技術 1)小児の特性を考えた実践 (1)コミュニケーション (2)バイタルサイン・身体計測 (3)輸液管理 (4)点滴固定・採血 (5)与薬 (6)清潔援助(更衣、おむつ交換、臀部浴)	講義 演習	10 (9)

■成績評価の方法

演習前の調べ学習・演習の実施状況・演習後のリフレクション内容を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)
写真でわかる小児看護技術アドバンス(インターメディカ)

■学習上の留意点

学習方法(ルーブリック評価を参照し自己学習に取り組んだうえで講義に臨む)

母性看護学概論

講師：丹羽 春菜、梶野 葉子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．母性看護の基盤となる概念について学び、看護の目的・対象が理解できる
2．女性のライフサイクルにおける特徴および発達課題・健康上の課題が理解できる
3．女性を取り巻く環境、法律、統計と動向から母性看護の現状がりかいできる
4．性と生殖における倫理的な課題を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
母性看護の基盤となる概念	1. 母性とは 2. 母性看護とは 3. ヘルスプロモーション 4. リプロダティブヘルス/ライツ 5. セクシュアリティとジェンダー	講義	5
母性看護における倫理・法律・施策	1. 母子保健統計 2. 母性看護における倫理 3. 母性看護に関する法律 4. 子育て支援に関する施策	講義	6
母性看護の対象	1. 生殖に関する生理 2. 生殖に関する生理と健康問題 3. 生殖における健康問題と看護 4. 不妊症 5. 加齢とホルモンの変化	講義	16
性と生殖における倫理的課題	1. 生殖医療における倫理的課題 1) 出生前診断における倫理的課題 2)生殖補助医療における倫理的課題 3) 体外受精と倫理的課題1. ドメスティックアセスメント	演習	2 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 母性看護学[1]概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[2]母性看護の実践(メディカ出版)
国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

母性看護学援助論Ⅰ

講師：丹羽 春菜

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．妊娠・分娩期の母体と胎児の生理的変化の特徴が理解できる
2．マタニティライフを健康に過ごすための援助が理解できる
3．分娩各期における援助が理解できる
4．妊娠・分娩期における健康上の課題と看護を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
正常な妊娠経過にある妊婦の看護	1.妊婦の生理 2.看護師の役割 3.出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 4.妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 5.出産と子育ての準備のための看護	講義	10
妊婦と胎児のリスクとその看護	1.妊婦と胎児のアセスメント 2.正常な経過からの逸脱症状と看護	講義	2
産婦・胎児のリスクとその看護	1. 産婦と胎児のアセスメント(リスク) 2. 産婦のニーズと看護	講義	2
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 母性看護学[1]概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[2]母性看護の実践(メディカ出版)
国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会)

■学習上の留意点

母性看護学援助論Ⅱ

講師：勝田 絵美、丹羽 春菜

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．産褥期および新生児期の母子の生理的変化と特徴が理解できる
2．新生児看護の原則と基本的な援助が理解できる
3．産褥・新生児における健康上の課題を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
正常な産褥経過にある褥婦の理解	1.褥婦の身体的変化 1)全身状態 2)退行性変化 3)進行性変化 2. 褥婦と家族のの心理・社会的変化 1)母親役割獲得 2)褥婦の心理 3)家族の役割 3.褥婦のアセスメント	講義	6
褥婦が産褥経過を健康に過ごすための支援	1.退行性変化を促す援助 1)産褥体操指導と実施 2.進行性変化に対する援助 1)乳頭、乳輪部の変化 2)乳汁分泌のメカニズム	講義	6
正常な産褥経過から逸脱した褥婦の看護	1.帝王切開後の褥婦の看護 2.子宮復古不全の褥婦の看護	講義	2
正常な産褥経過をたどる褥婦の看護	1.事例を用いて褥婦の看護の実際を考える 1)妊娠・分娩経過をふまえたアセスメントの視点 2)褥婦の子宮および全身復古を促すための看護 3)褥婦の乳汁分泌を促す看護 2.妊婦計測	講義 演習	6 (5)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験60%・課題レポート40%を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 母性看護学[1]概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[2]母性看護の実践(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[3]母性看護技術(メディカ出版)

■学習上の留意点

母性看護学援助論Ⅲ

講師：丹羽 春菜

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に必要な基本的技術を安全に実施できる
2．新生児看護の原則と基本的な援助が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
正常な経過にある新生児の理解と看護	1.新生児の生理 2.新生児看護の意義と原則 3.新生児の抱っこ、授乳姿勢、効果的な吸着 4.胎外生活適応への援助 5.退院までの経過観察と看護 6.新生児の基本的援助 7.新生児の看護	講義	8
新生児の看護	1.新生児のアセスメント 2.新生児の看護に必要な基本的技術 ＜技術演習＞ 1)新生児のバイタルサイン測定 2)衣類・オムツの交換 3)沐浴 4)調乳	演習	6 (6)
	実技試験		1

■成績評価の方法

実技試験（沐浴）100%、演習内容を総合的に評価100%
実技試験、演習内容のそれぞれが60%以上で合格とする

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 母性看護学[1]概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[2]母性看護の実践(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 母性看護学[3]母性看護技術(メディカ出版)

■学習上の留意点

精神看護学概論

講師：伊藤 要、萱野 明子

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．こころの健康障害とはなにかについて考える
2．こころの健康を理解し、ストレス対処方法および危機介入について考える
3．精神保健医療の沿革・歴史、現在の社会情勢やニーズを理解する
4．こころの健康障害をもつ人とのかかわりの特徴を理解する
5．対象の権利擁護と倫理的問題について考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
精神看護の目的	1.こころのケアと現代社会 2.精神看護の課題	講義 演習	6 (2)
こころの健康と障害	1.こころの健康とは 2.精神障害の体験 3.精神障害のとらえかた	講義 演習	8 (4)
こころの働き	1.こころのしくみと人格の形成 1)こころのしくみと人格の発達 2)こころの危機とストレス	講義	2
こころの健康障害をもつ人とのかかわり	1.ケアの人間関係 1)ケアの原則 2)患者-看護師関係の発展過程 3)プロセスレコードの活用	講義 演習	3 (1)
社会のなかの精神障害	1.精神障害の治療と歴史 2.精神障害と法制度 1)精神保健福祉に関する社会制度 3.精神看護の人権-倫理と法	講義	10
	筆記試験		1

■成績評価の方法

レポート評価・筆記試験を総合的に評価

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)
系統看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)

■学習上の留意点

再試験はレポート評価、筆記試験を100%で評価する

精神看護学方法論

講師：髙木 友徳、萱野 明子

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1. こころの健康障害をもつ人の特徴と看護師の役割が理解できる
2. おもな精神障害に対する治療と検査について理解できる
3. こころの健康障害をもつ人への看護援助の基本が理解できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
精神症状とは	1.さまざまな精神症状 1)思考の障害 2)感情の障害 3)意欲の障害 4)知覚の障害	講義	4
精神障害をもつ人の理解	1.精神障害の診断と分類 1)DSMとICDの分類 2)おもな精神障害 (1)統合失調症 (2)気分障害 (3)発達障害 (4)認知症 2.おもな精神科治療 1)薬物療法 2)精神療法	講義	10
こころの健康障害をもつ対象への看護援助の基本	1.入院治療の意味 1)入院の目的 2)治療的環境 3)退院に向けての支援	講義	3
回復を支援する	1.回復の意味 1)リカバリーを促す環境 2)回復のためのプログラム	講義 演習	3 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)

系統看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)

精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版)

■学習上の留意点

再試験は筆記試験を100%で評価する

精神看護学援助論Ⅰ

講師：舘 わかな

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：2学年

■学習目標

1．こころの健康障害の回復過程に応じた身体ケアについて理解する
2．抗精神病薬の有害反応や治療に伴う日常生活行動への影響を知り、看護を考える
3．患者の安全を守るためのリスクマネジメントを理解する
4．看護師のメンタルヘルスを理解し、自己のメンタルヘルスについて考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
精神科における身体ケア	1.急性期における身体ケア 2.回復期における身体ケア 3.睡眠とそのケア 4.薬物療法を受ける患者のケア 1)抗精神病薬の有害反応 5.身体合併症のアセスメントとケア	講義	4
安全を守るためのリスクマネジメント	1.リスクマネジメントの考え方 1)安全の条件 2)リスクマネジメントと行動制限 2.緊急事態に対処する 1)自殺 2)暴力	講義 演習	4 (2)
症状に伴う患者の反応と看護	1.幻覚・妄想状態にある人の看護 2.抑うつ状態にある人の看護 3.地域で暮らす発達障害をもつ人の看護	講義 演習	8 (4)
さまざまな場におけるメンタルヘルスと看護	1.医療の場におけるメンタルヘルスと看護 2.災害時のメンタルヘルスと看護 3.看護師のメンタルヘルスと看護	講義	4
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)
系統看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)
精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版)

■学習上の留意点

再試験は筆記試験を100%で評価する

精神看護学援助論Ⅱ

講師：萱野 明子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：2学年

■学習目標

1. こころの健康障害をもつ人の回復を促す支援を考える

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
地域におけるケアと支援	1.地域における生活支援の方法 2.地域におけるケアの方法と実際 3.職場におけるメンタルヘルスと精神看護	講義 演習	4 (2)
こころの健康障害をもつ人の看護の実際	1.事例を用いて看護の実際を考える 1)妄想が日常生活行動に与える影響 2)セルフケアおよび人間関係における日常生活上の課題 3)セルフケア向上に向けた援助	講義 演習	11 (8)

■成績評価の方法

演習課題

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)

系統看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)

精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版)

■学習上の留意点

再試験は課題を100%で評価する

看護管理

講師：山﨑 則江、渥美 美保

単位数：1単位　　時間数：21時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．よりよい看護サービスを提供するため、看護組織の一員として医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ

2．看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る際に基盤となる倫理的行動を探究できる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護管理の基本	1.看護管理の基本となるもの 1)看護とは 2)看護活動の場 2.看護管理の実際 1)看護管理とは 2)看護とマネジメント	講義	2
看護の質向上と基盤となるシステム	1.看護の質向上と看護管理 1)看護サービスの組織化 2)看護実践の範囲 3)チーム医療、専門職間の連携・協働 4)リーダシップ 5)安全管理体制 6)看護実践の評価と改善 2.看護管理に求められる能力 1)人間関係を構築するスキル 2)組織の効率化 3.看護職とキャリア	講義	10
看護実践における倫理	1.看護実践における倫理的基盤 1)看護管理と倫理のアプローチ 2)看護管理と倫理の視点からみるアプローチ 3)倫理的ジレンマと向き合う	講義	2
看護管理と倫理実践	1.倫理的課題 1)倫理的ジレンマ 2)倫理原則に沿った事例検討 2.組織で取り組む倫理的課題	演習	4 (4)
看護職とキャリア開発	1.キャリアとキャリア発達 2.キャリア発達 3.専門職として成長し学び続ける	講義	2
試験	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験50%・課題レポート50%を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフカ 看護の統合と実践[1]看護管理(メディカ出版)

■学習上の留意点

再試験は、筆記試験100%で評価

医療安全

講師：渕上 裕子

単位数：1単位　　時間数：15時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．医療安全の考え方を学ぶ
2．医療事故を予防するための安全システムを学ぶ
3．事故事例をもとに、講義や既習の知識を活用し安全対策を考えることができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
医療事故の考え方	1.ヒューマンエラーの概念 2.医療事故の概念 1)医療事故とは 2)医療事故の種類 3.医療事故の実態 4.医療事故の要因(患者・看護師)	講義	4
事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	1.看護職の法的規定と医療安全 2.看護業務と事故発生要因 3.看護事故防止の考え方 (エラーの発生防止と拡大防止) 4.医療安全システム 1)リスクマネジメントの考え方 2)セーフティマネジメントの考え方 5.事故の構造 1)時系列の構造 2)因果の構造	講義	4
看護における医療事故と安全対策	1.医療事故発生時の初期対応の考え方 1)針刺し事故の防止・事故後の対応 2)インシデント・アクシデントの発生時の速やかな報告 2.事故対策 1)日常生活援助に潜むリスクと安全 <技術演習> 1.輸液・シリンジポンプ操作	講義 演習	6 (2)
	筆記試験		1

■成績評価の方法

筆記試験80%・演習20%を総合的に評価

■テキスト参考書など

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践[2]医療安全(メディカ出版)

■学習上の留意点

災害看護・国際看護

講師：坂本 昌子、小林 豊
祖父江 一美

単位数：1単位　　時間数：30時間

授業学年：1学年

■学習目標

1．グローバル化された社会で生きる「人間」が看護の対象であることを理解し、異文化を尊重した看護を考える
2．日本のODA(政府開発援助)によりおこなわれている二国間や他国間への援助を知り、世界の健康課題と看護師の役割を考える
3．災害が及ぼす影響や災害に対する社会の反応が分かり、社会情勢やニーズを考えることができる
4．災害時における看護活動について学び、災害を想定した看護を考えることができる
5．災害時に必要な基本的な看護技術を学ぶ

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数(内演習)
国際看護概論	1.グローバル化された社会で生きている「人間」 2.日本における国際看護の重要性	講義	1
異文化への理解	1.日本で生活する在留外国人 1)在留カードと保険 2.異文化理解と人を尊重した看護 1)多様な宗教 2)多様な暮らし 3.日本の医療の世界的水準	講義	6
日本の国際協力	1.日本のODA 2.日本の看護師が参加できる国際協力 1)JICA(独立行政法人国際協力機構) 2)JOCV(青年海外協力隊)	講義	4
人間の安全保障と国際機関	1.国際連合、世界保健機関(WHO) 2.人間の安全保障 3.MDGs(国連ミレニアム目標)、SDGs(国連持続可能な開発目標)	講義	1
プライマリヘルスケア	1.アルマアタ宣言 2.プライマリヘルスケア	講義	1
諸外国における保健・医療・福祉の課題	1.国際移動する看護師 2.紛争と難民 3.感染症とスティグマ 4.災害と国際看護	講義	2
災害時の保健医療の理解	1.災害の理解 1)災害の定義 2)災害の種類と特徴 2.災害時の支援体制、医療体制 1)災害派遣医療チーム 2)災害派遣精神医療チーム 3)災害医療コーディネーター 4)災害時健康危機管理支援チーム	講義	4
災害医療と看護活動	1.災害と看護活動 1)災害が及ぼす健康への影響 2)災害時に特徴的な看護ニーズ 2.災害救援活動 1)災害時の初動 2)CSCATTT 3.災害に備える 1)病院における防災 2)地域における防災 3)看護学生として災害に備える 4.災害時のメンタルヘルス	講義	6

災害時に必要な技術	＜技術演習＞ 1. 安全対策 1)災害時の指揮命令系統の確立 2)災害時の安全確保 2.トリアージ 3.包帯法	演習	4 (4)
	筆記試験		1

■成績評価の方法
筆記試験

■テキスト参考書など
ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践[3]災害看護(メディカ出版)
国際看護 ―国際社会の中で看護の力を発揮するために―(南江堂)

■学習上の留意点

看護の統合

講師：山下 千代美、加藤 僚子

単位数：2単位　　時間数：45時間

授業学年：3学年

■学習目標

1．患者の状況に合わせて看護技術を安全に実施することができる

■学習内容

単元	授業内容	授業形態	時間数 (内演習)
看護師としての自己を問い直す	1.自分自身の問題状況の取り組み 2.自己の看護の方向性に関与している関心 3.自己の看護実践の基礎となっている理論 4.自己の感情・考え方・習慣 5.看護観の共有	講義 演習	10 (8)
患者の状況の理解と援助計画	1.患者の状況を理解し、必要な看護技術を安全に提供するための計画を考える 1)対象の健康状況の把握を行い、必要な援助の判断をする 2)安全・安楽・倫理性・タイムマネジメントを踏まえた援助計画を立案する	講義 演習	10 (8)
患者の状況に合わせた援助の実施	1.患者の状況に合わせて必要な看護技術を安全に実施する	演習	15 (15)
	実技試験		10

■成績評価の方法

実技試験

■テキスト参考書など

なし

■学習上の留意点

講師一覧

科目	講師名	備考
論理学	加藤　彩	豊田工業高等専門学校 非常勤講師
看護にいかす物理学	金田 泰代	四日市看護医療大学 看護医療学部臨床検査学科 助手
看護情報科学	丹羽 尚子	公立春日井小牧看護専門学校 非常勤講師　元RoboCup Federation ジュニア General chair　元京都造形芸術大学 非常勤講師
外国語(英語)	Joycylin Ayuste Bastian	金城学院大学 非常勤講師　愛北看護専門学校 非常勤講師
倫理学	前田 泰徳	西山浄土宗 宗教法人 眞乗院 代表役員　愛北看護専門学校 非常勤講師　中部大学 応用生物学部 非常勤講師　三重中央看護学校　非常勤講師　名古屋医専 非常勤講師
文化人類学	加藤 英明	南山大学 人類学研究所 非常勤研究員　南山大学 人文学部人類文化学科 非常勤講師　名城大学 人間学部人間学科 非常勤講師
心理学	Keshia Vianny Sundjaja	同朋大学大学院 人間福祉研究科附属 心理臨床センター 研修相談員　犬山家庭児童相談室 非常勤相談員　一宮サンフレンズ 非常勤相談員　公立瀬戸旭看護専門学校 非常勤講師
教育学	千田 沙也加	ユマニテク短期大学 非常勤講師　名古屋女子大学 非常勤講師　至学館大学 非常勤講師
人間発達学	楯 誠	名古屋経済大学 人間生活科学部教育保育学科 教授
人間関係とコミュニケーション	菅 吉基	同朋大学 社会福祉学部　非常勤講師　東海医療科学専門学校 非常勤講師　星城大学リハビリテーション学院 非常勤講師
生活と社会学	佐橋 寿実	公立春日井小牧看護専門学校 非常勤講師　保育・介護・ビジネス名古屋専門学校兼東京福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科 非常勤講師　金城学院大学 国際情報学部 国際情報学科(WLIB) 非常勤講師
笑いの科学	山本 律江	メディカルマネジメントプラス 人材育成トレーナー研修講師　日本笑い学会 笑いの講師団 研修講師
スポーツと健康	榊原 浩文	ヒロヨガ教室 ヨガ講師
レクリエーションと健康	脇坂 康彦	愛知江南短期大学 教授
看護における形態と機能Ⅰ	今井 英夫	今井医院 院長
看護における形態と機能Ⅰ	佐野　幹	さのクリニック 院長
看護における形態と機能Ⅰ	渡部 敬俊	渡部内科医院 院長　尾北看護専門学校 学校長
看護における形態と機能Ⅱ	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅱ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅱ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅲ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅲ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 外来主任 皮膚・排泄ケア認定看護師
看護における形態と機能Ⅳ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
看護における形態と機能Ⅳ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 外来主任 皮膚・排泄ケア認定看護師
看護における形態と機能Ⅳ	川部 幹子	コスモス眼科 院長
看護における形態と機能Ⅳ	白木 精	医療法人白木ふそう耳鼻咽喉科 理事長
看護における形態と機能Ⅳ	石崎 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
看護における形態と機能Ⅴ	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
看護における臨床生化学	高崎 昭彦	四日市看護医療大学 学長補佐・看護医療学部 臨床検査学科 学科長・教授
病因論	福山 隆一	江南厚生病院 病理診断科 代表部長
臨床薬理学	田中 廣美	江南厚生病院 薬剤部 薬剤科員

微生物学	河内　誠	江南厚生病院 診療協同部 臨床検査室 係長
健康障害と治療Ⅰ	古市 昌宏	総合犬山中央病院 脳神経外科統括部長
健康障害と治療Ⅰ	藤林 孝義	江南厚生病院 第一整形外科部長 兼 リウマチ科部長 兼 リハビリテーション科部長
健康障害と治療Ⅰ	加藤 宗一	江南厚生病院 第二整形外科部長 兼 手外科部長
健康障害と治療Ⅱ	鬮目 美穂子	いわくら内科・呼吸器内科クリニック 院長
健康障害と治療Ⅱ	田中 美穂	江南厚生病院 第二循環器内科部長
健康障害と治療Ⅲ	福島 庸晃	江南厚生病院 第一血液・腫瘍内科部長
健康障害と治療Ⅲ	小島 博	江南厚生病院 透析センター長 兼 腎臓内科代表部長
健康障害と治療Ⅲ	阪野 里花	江南厚生病院 第二泌尿器科部長
健康障害と治療Ⅳ	佐々木 洋治	江南厚生病院 副院長 兼 保健事業部長 兼 内視鏡センター長 兼 消化器内科代表部長 兼 愛北看護専門学校長
健康障害と治療Ⅳ	小林 豊	さくら総合病院 理事長・病院長
健康障害と治療Ⅳ	山本 淳史	さくら総合病院 外科部長
健康障害と治療Ⅳ	和田 直樹	総合犬山中央病院 麻酔科医長
健康障害と治療Ⅴ	武石 宗一	総合犬山中央病院 内科統括副部長 兼 糖尿病内科医長
健康障害と治療Ⅴ	川部 幹子	コスモス眼科 院長
健康障害と治療Ⅴ	白木 精	医療法人白木ふそう耳鼻咽喉科 理事長
健康障害と治療Ⅴ	小島 伸恭	こじま医院 院長
健康障害と治療Ⅵ	木村 直美	江南厚生病院 産婦人科代表部長 兼 周産期母子医療センター部長
健康障害と治療Ⅵ	尾崎 隆男	江南厚生病院 小児科顧問（こども医療センター顧問）
救急救命医療	小林 豊	さくら総合病院 理事長・病院長
医療概論	齊藤 雅也	総合犬山中央病院 院長
看護と法律	白村 大勲	せせらぎ法律事務所 弁護士
公衆衛生学	江口 智美	江南厚生病院 健康管理センター 保健師 係長
公衆衛生学	田中 ひとみ	岐阜医療科学大学 保健科学部臨床検査学科 助教
社会福祉	千葉 忠道	東海学院大学 健康福祉学部 総合福祉学科 非常勤講師　岐阜協立大学 経済学部公共政策学科 非常勤講師　岐阜県立多治見看護専門学校 非常勤講師　名鉄看護専門学校 非常勤講師　中部労災看護専門学校 非常勤講師　えきさい看護専門学校 非常勤講師　東濃看護専門学校 非常勤講師　岐阜県立下呂看護専門学校 非常勤講師
リハビリテーション論	足立 勇	江南厚生病院 リハビリテーション技術科 課長
エンド・オブ・ライフケア	奥村 智宏	(株)はぐろ薬局 薬剤師 代表取締役
エンド・オブ・ライフケア	高倉 梢	江南厚生病院 がん性疼痛看護認定看護師
エンド・オブ・ライフケア	祖父江 正代	江南厚生病院 看護課長 がん看護専門看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師
基礎看護学概論	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
看護における共通技術	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
看護における共通技術	小濱 美保	可児とうのう病院 感染管理認定看護師
看護における共通技術	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメントⅠ	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメントⅠ	小早志 太佳子	尾北看護専門学校 専任教員
フィジカルアセスメントⅡ	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員

日常生活援助技術Ⅰ	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅰ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅱ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅱ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員
日常生活援助技術Ⅲ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
日常生活援助技術Ⅲ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
診療補助技術	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
看護の思考	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
看護の思考	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
基礎臨床看護論	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
基礎臨床看護論	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
指導技術	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
指導技術	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
看護研究	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
看護研究	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
地域と暮らし	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
家族を支える看護	佐橋 寿実	公立春日井小牧看護専門学校 非常勤講師 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校兼東京福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科 非常勤講師 金城学院大学 国際情報学部 国際情報学科(WLIB) 非常勤講師
家族を支える看護	小早志 太佳子	尾北看護専門学校 専任教員
暮らしを支える看護Ⅰ	江口 智美	江南厚生病院 健康管理センター 保健師 係長
暮らしを支える看護Ⅰ	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
暮らしを支える看護Ⅱ	小早志 太佳子	尾北看護専門学校 専任教員
地域で療養する人を支える看護Ⅰ	小早志 太佳子	尾北看護専門学校 専任教員
地域で療養する人を支える看護Ⅰ	矢野 由美子	江南厚生訪問看護ステーション 看護係長 訪問看護認定看護師
地域で療養する人を支える看護Ⅱ	小早志 太佳子	尾北看護専門学校 専任教員
地域で療養する人を支える看護Ⅱ	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年看護学概論	丹羽 恵理	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年看護学概論	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
成人・老年看護学援助論Ⅰ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年看護学援助論Ⅰ	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 外来主任 皮膚・排泄ケア認定看護師
成人・老年看護学援助論Ⅰ	金井 香子	江南厚生病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
成人・老年看護学援助論Ⅱ	蓑原 佳世	江南厚生病院 看護係長
成人・老年看護学援助論Ⅱ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年看護学援助論Ⅲ	澤田 真弓	江南厚生病院 看護係長
成人・老年看護学援助論Ⅲ	山田 さおり	江南厚生病院 看護係長 慢性心不全看護認定看護師
成人・老年看護学援助論Ⅳ	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
成人・老年看護学援助論Ⅳ	斉木 真美	総合犬山中央病院 看護長
成人・老年臨床看護論Ⅰ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年臨床看護論Ⅰ	川口 志帆	尾北看護専門学校 専任教員

成人・老年臨床看護論Ⅱ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
成人・老年臨床看護論Ⅱ	天野 果奈	尾北看護専門学校 専任教員
疾病理解と看護学的視点Ⅰ	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
疾病理解と看護学的視点Ⅱ	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
疾病理解と看護学的視点Ⅱ	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
高齢者のヘルスアセスメント	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任
高齢者のヘルスアセスメント	奥山 美佐恵	総合犬山中央病院 外来主任 皮膚・排泄ケア認定看護師
小児看護学概論	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
小児看護学概論	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
小児看護学援助論Ⅰ	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
小児看護学援助論Ⅱ	上田 みずほ	江南厚生病院 看護係長 小児救急看護認定看護師
小児看護学援助論Ⅱ	安藤 都子	江南厚生病院 看護係長
小児看護学援助論Ⅱ	澤田 三世	江南厚生病院 助産師 係長
小児看護学援助論Ⅲ	石﨑 敦子	尾北看護専門学校 専任教員
母性看護学概論	丹羽 春菜	尾北看護専門学校 専任教員
母性看護学概論	梶野 葉子	小牧保健センター 助産師
母性看護学援助論Ⅰ	丹羽 春菜	尾北看護専門学校 専任教員
母性看護学援助論Ⅱ	勝田 絵美	江南厚生病院 助産師
母性看護学援助論Ⅱ	丹羽 春菜	尾北看護専門学校 専任教員
母性看護学援助論Ⅲ	丹羽 春菜	尾北看護専門学校 専任教員
精神看護学概論	伊藤 要	東舞鶴医誠会病院 地域医療連携室 室長
精神看護学概論	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
精神看護学方法論	髙木 友徳	ともこころのクリニック 院長
精神看護学方法論	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
精神看護学援助論Ⅰ	舘 わかな	犬山病院 看護師長
精神看護学援助論Ⅱ	萱野 明子	尾北看護専門学校 実習調整者
看護管理	山﨑 則江	江南厚生病院 副看護部長
看護管理	渥美 美保	尾北看護専門学校 副学校長
医療安全	渕上 裕子	総合犬山中央病院 看護長
災害看護・国際看護	坂本 昌子	元尾北看護専門学校 教員
災害看護・国際看護	小林 豊	さくら総合病院 理事長・病院長
災害看護・国際看護	祖父江 一美	さくら総合病院 看護師長
看護の統合	山下 千代美	尾北看護専門学校 専任教員
看護の統合	加藤 僚子	尾北看護専門学校 教務主任

教科外活動（学校行事・その他）

行事	時期	時間			目的
		1年	2年	3年	
入学式	4月	4	4	4	看護学生としての自覚をもち、学校生活出発点とする。
入学オリエンテーション	4月	16			本校の教育方針や概要を知り、学校生活が円滑に送れるようにする。
実習オリエンテーション	通年	14	8	14	実習目的・目標・概要を知り、スムーズに実習が受けられるとともに学習の動機づけとする。
定期健康診断	5月	4	4	4	自己の健康状態を知り、健康管理に対する認識を深める。
防災訓練	7月	4	4	4	防災知識・安全対策を学び、災害発生時の対処方法を理解する。また、救急法を学ぶ。
卒業式	3月	4	4	4	看護基礎教育課程修了を認定し、卒業生の専門職業人としての自覚と責任を高める。また、在校生は、看護師を目指す目標を再認識し、自らの学習動機を高める。
親睦会	4月	8	8	8	学生間の交流を深め人間関係を構築する。
施設見学	通年		4	4	多施設を見学することで、広い視野に目を向けることができ、看護を考える知識を養う。
看学祭（戴灯式）	9月	12	8	8	学生が主体となり、企画運営することにより、協調性・主体性・創造性を養う機会とする。また、広い視野に立って看護を考える機会とし、豊かな人間性を育む。 戴灯式では、看護師を目指す目標を再認識し、学習動機を高める機会とする。
ボランティア活動	通年	4	4		ボランティア活動を通して、地域の人々の生活環境を知り、福祉活動の重要性を学ぶ機会とする。また、「支え手」「受け手」という関係を超えて、『我が事』として参加し、共生の精神を培う。
さくら会	通年	12	12	12	活動を通して学生間における、たてよこのつながりと親睦を深め、人間関係形成能力を養う。協調性・主体性・創造性を養い集団行動におけるリーダー・メンバーの役割を知る。
看護の探究	通年	8	8	4	自己の実践活動を振り返り、自己の看護観を明確にする。 科学的・論理的に物事を考える力と研究する態度を身につける。
合計		90	68	66	